

坂東市地域公共交通体系整備計画



平成 2 4 年 1 月

坂 東 市

坂東市地域公共交通体系整備計画

— 目次 —

1	はじめに	1
2	坂東市の概要	
(1)	地理的環境	2
(2)	人口の動向	3
(3)	通勤状況	4
(4)	通学状況	5
(5)	主な公共施設	6
(6)	医療機関	7
(7)	自家用車の保有状況	8
(8)	道路の状況	9
3	現況と課題の整理	
(1)	公共交通の経緯	10
(2)	現在の状況	11
(3)	コミュニティバスの利用状況	13
4	アンケート調査の実施概要及び結果	
(1)	アンケート調査の実施概要	29
(2)	調査結果	30
5	地域公共交通体系整備計画	
(1)	新地域公共交通の整備方針	54
(2)	新地域公共交通運行計画	56
(3)	目標	72

資料

- 1 坂東市地域公共交通に関するアンケート調査票
- 2 コミュニティバス バス停別乗降者数

1 はじめに

本市は可住地面積が広く、集落が散在している。また、農業を中心に発展を遂げてきた歴史も加わり、自家用車への依存度が非常に高く、自家用車の保有台数は県内でも上位に位置している。

公共交通は、鉄道駅がないため、路線バス及びタクシーがその役を担っているが、車社会の進展により自家用車の利用が増大するとともに、少子化による通学利用の減少などにより利用者が減少し大変厳しい状況下に置かれている。

現在は民間事業として、路線バス5系統、高速バス2系統が運行しているが、利用者は減少傾向にあり、運行本数の減少や運行区間の短縮などが続いている。

このような状況下、市では、合併に伴う行政区域の広域化に対応するとともに、高齢者や障がい者などの交通弱者が安全に快適に施設等を利用できる交通環境の整備を目指し、平成18年11月より、市内の各地域を結び、主な公共施設や病院、商業施設などを循環するコミュニティバスの運行を行ってきた。

コミュニティバスの利用状況について1便当たりの利用者数をみると、平成19年度には3,59人と低い状況にあったが、2度にわたる運行の見直しを行うなど利便性の向上に努めたことにより、平成22年度には5,79人と僅かながら増加している状況にある。また、利用者1人当たりの運行経費について、運賃収入を差し引いた額で比較すると、平成19年度には約1,200円であったが、平成22年度には約809円と減少傾向にあるが、利用者に対する市の負担は、まだまだ大きい状況にあるといえる。

また、平成22年度に実施した市民アンケートでは、コミュニティバスを利用しない理由として、「他の交通手段を利用している」という回答が最も多かったが、「運行経路が合わない」、「利用時間が合わない」、「停留所が自宅や目的地から遠い」などの回答も多く出されている。

このような状況の中で、これまでのコミュニティバス運行事業の抜本的な見直しを行い、市の負担をできるだけ抑制するとともに、より利便性の高い、新たな地域公共交通システムの導入を目指すものである。

2 坂東市の概要

(1) 地理的環境

坂東市は、茨城県の南西部に位置し、東は常総市、西は境町、南は利根川を挟んで千葉県の野田市、北は古河市、八千代町と接している。面積は、123.18km²で東西約12km、南北20kmとなっている。

市の南西には利根川、南側に飯沼川、東側に西仁連川が流れ、その周辺には広大な水田が広がっている。また、南端には菅生沼があり、多くの生き物が生息する貴重な水辺空間が残されている。

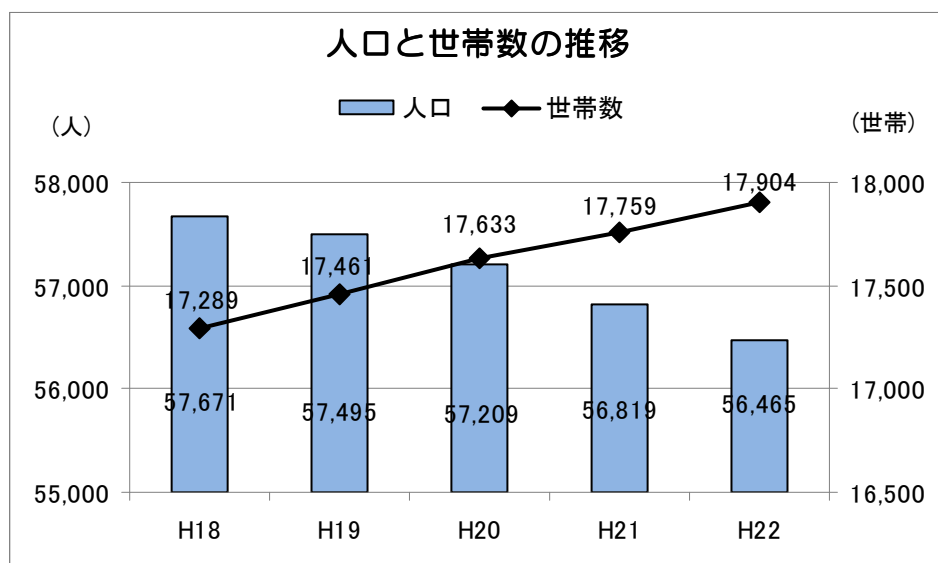
市の中央部は猿島台地とよばれるおおむね平坦な台地が広がっており、全国有数の生鮮野菜の供給基地となっている。



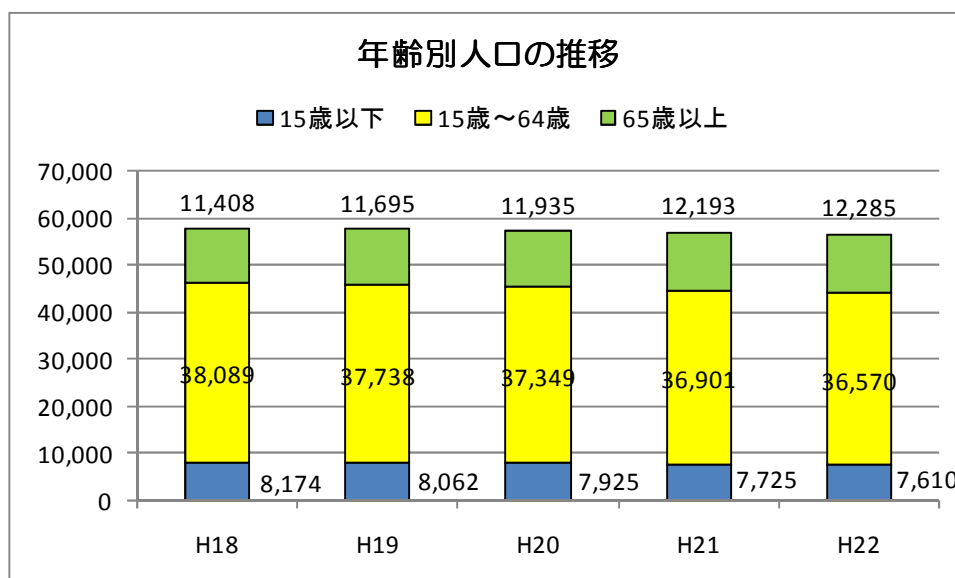
(2) 人口の動向

人口について、平成18年と平成22年を比較すると1,206人減少しているが、世帯数は615世帯増えており、核家族化が進んでいる。

また、年齢別の人口について平成18年と平成22年を比較すると、15歳未満の人口が564人減少しているのに対し、65歳以上の人口は877人増加しており、少子高齢化が進展している。



資料：住民基本台帳人口（各年10月1日）



資料：住民基本台帳人口（各年10月1日）

(3) 通勤状況

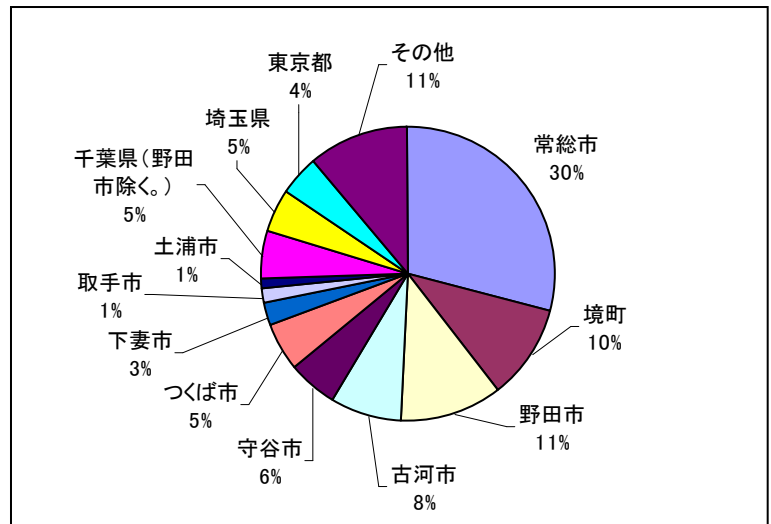
本市からは隣接する常総市・千葉県野田市・境町への通勤者が多く、本市への通勤者は常総市・境町・古河市の順となっている。

市外への通勤状況(15歳以上)

(単位:人)

通学先	人数
常総市	3,277
境町	1,133
野田市	1,251
古河市	872
守谷市	630
つくば市	584
下妻市	304
取手市	165
土浦市	134
千葉県(野田市除く。)	593
埼玉県	540
東京都	477
その他	1,256
計	11,216

資料:平成17年国勢調査

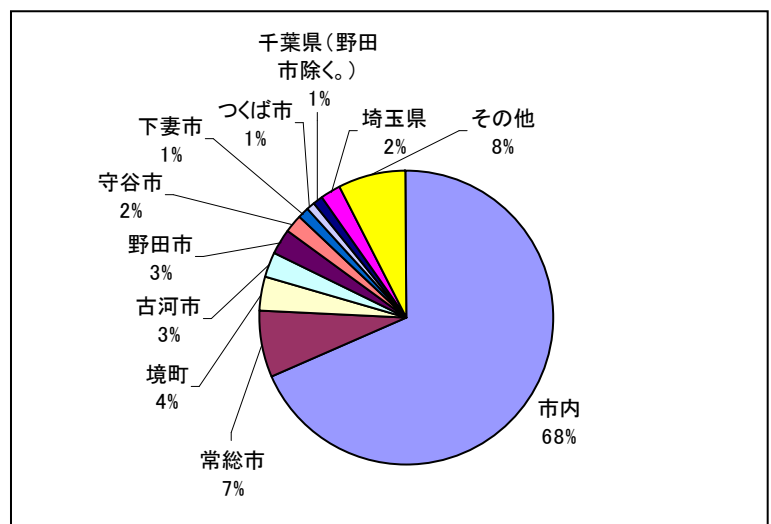


市内への通勤状況(15歳以上)

(単位:人)

居住地	人数
市内	19,553
常総市	2,074
境町	1,061
古河市	853
野田市	787
守谷市	521
下妻市	369
つくば市	309
千葉県(野田市除く。)	318
埼玉県	595
その他	2,152
計	28,592

資料:平成17年国勢調査



(4) 通学状況

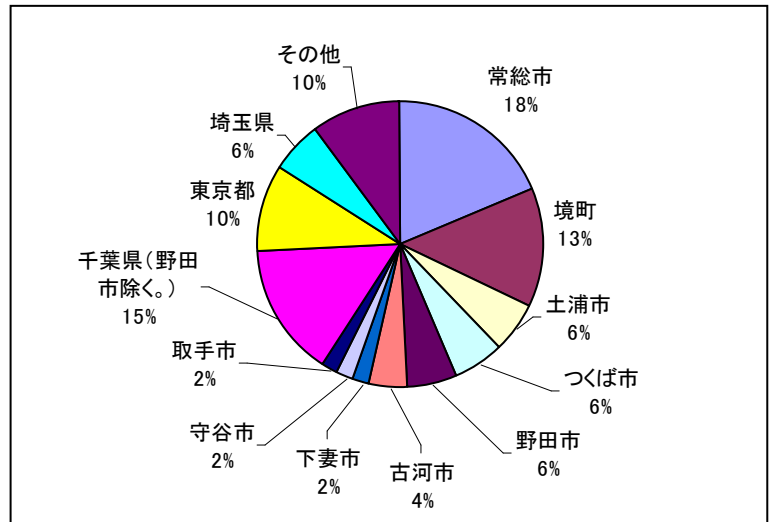
本市からは隣接する常総市・境町への通学の割合が大きいですが、土浦市やつくば市など県南地区や千葉県、東京都など県外へも643人が通学するなど広範囲にわたっている。本市への通学者は市内居住者が大半を占め、市外からは常総市・境町の順となっている。

市外への通学状況(15歳以上)

(単位:人)

通学先	人数
常総市	296
境町	207
土浦市	90
つくば市	89
野田市	87
古河市	65
下妻市	32
守谷市	29
取手市	28
千葉県(野田市除く。)	238
東京都	151
埼玉県	96
その他	158
計	1,566

資料:平成17年国勢調査

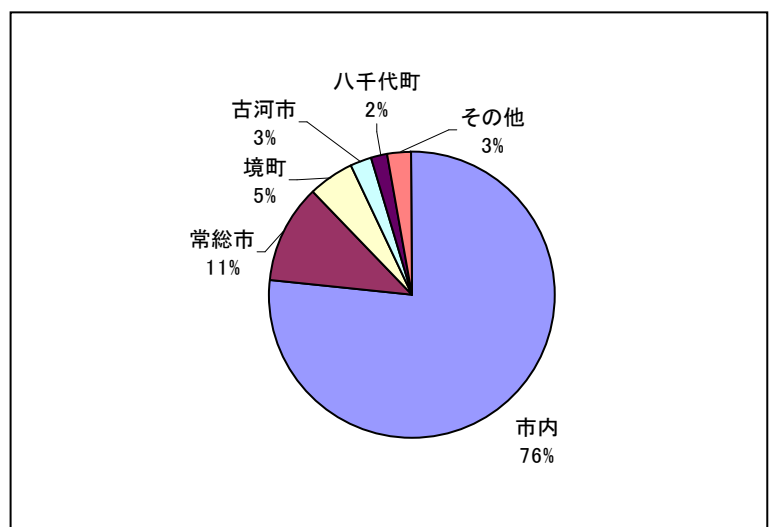


市内への通学状況(15歳以上)

(単位:人)

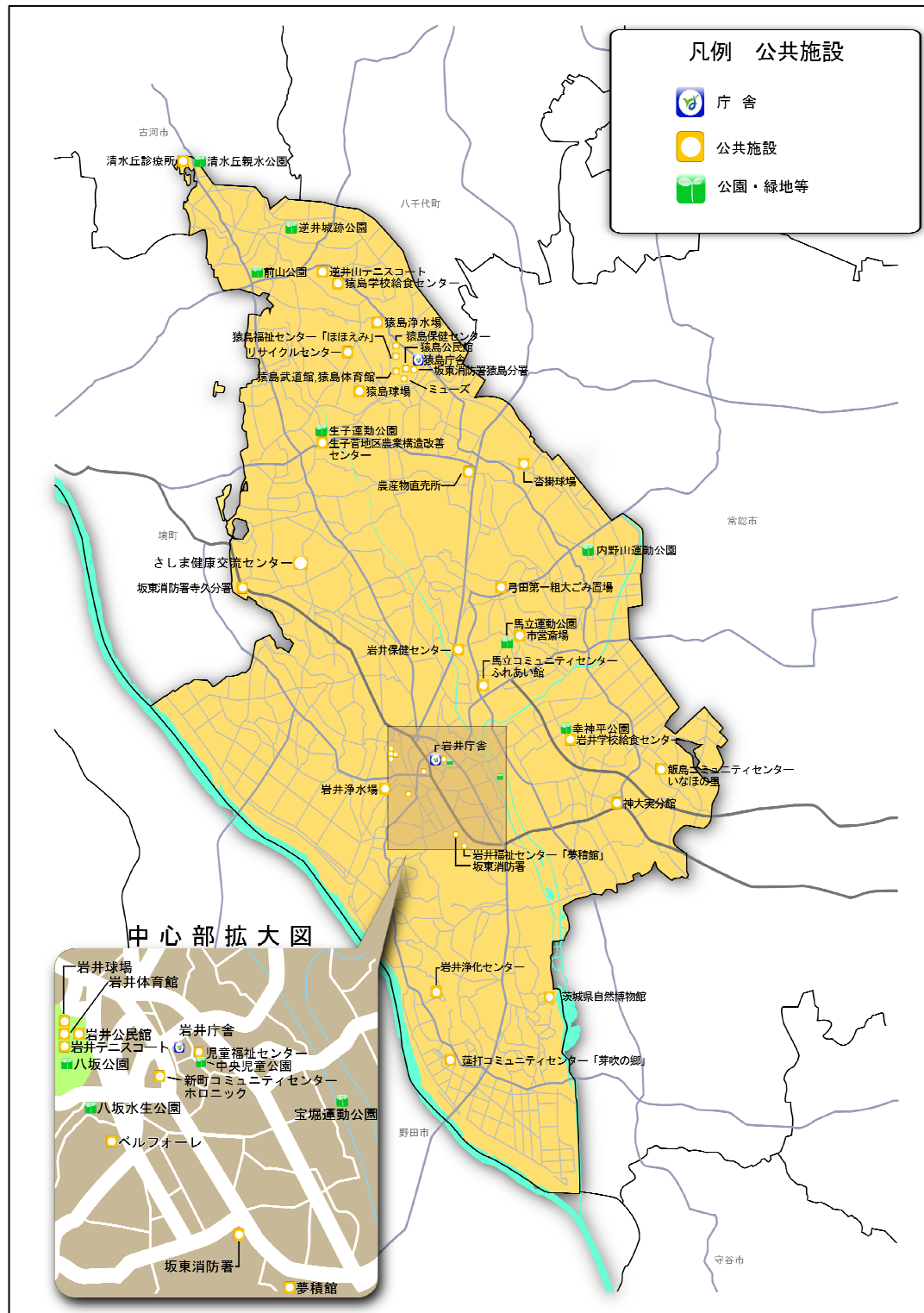
居住地	人数
市内	1,316
常総市	191
境町	87
古河市	45
八千代町	27
その他	49
計	1,715

資料:平成17年国勢調査



(5) 主な公共施設

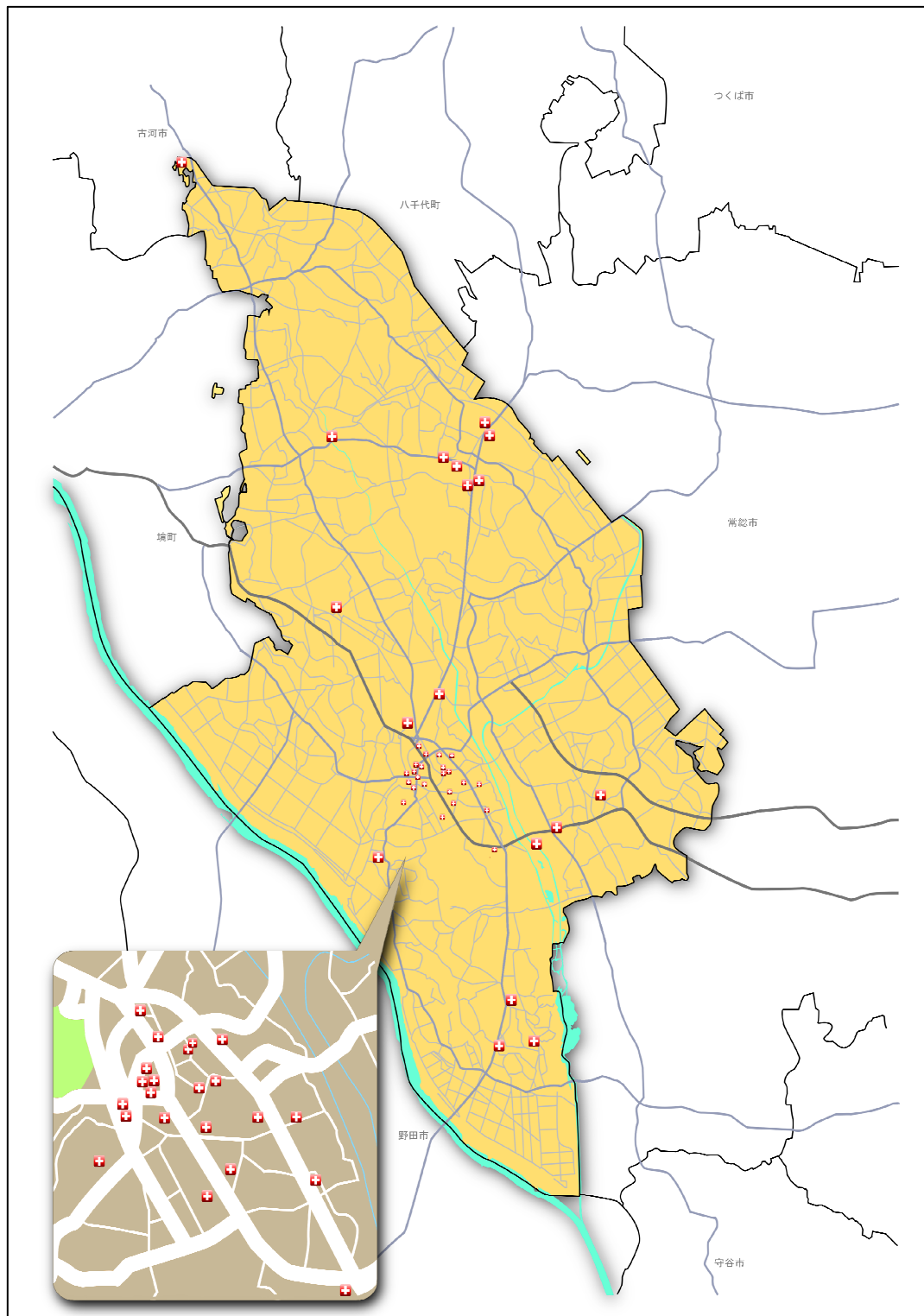
平成17年3月の坂東市誕生以来、合併前の両市町の庁舎である岩井庁舎・猿島庁舎に市役所機能を分散して業務を行っている。公共施設は両庁舎付近にある程度の集積があるものの、市内に広く分布している。



(6) 医療機関

本市には、100以上の一般病床を有する病院がなく、周辺市町村を含めた広域の二次保健医療圏である「古河・坂東保健医療圏」の中で、市内外の医療機関とも連携し、休日・夜間の救急医療や小児医療体制の確保に努めている。

市民の身近な地域医療を担う診療所は市内各地に分散している。



(7) 自家用車の保有状況

茨城県の自家用車保有台数は全国第3位で、全国平均を大幅に上回っている。その中でも坂東市は第6位と上位に位置している。

自家用乗用車保有台数(千人当たり)
平成22年3月31日現在

順位	都道府県名	指標値
1	群馬県	638.0台
2	栃木県	614.7台
3	茨城県	610.3台
4	富山県	608.4台
5	長野県	596.3台
	全国	452.0台
47	東京都	239.8台

計算式：自家用乗用車台数÷総人口×1000

資料出所：自動車検査登録情報協会資料
推計人口(総務省)

自家用乗用車保有台数(千人当たり)
平成22年3月31日現在

順位	市町村	指標値
1	美浦村	840.60
2	下妻市	761.23
3	小美玉市	706.85
4	稲敷市	669.29
5	鉾田市	665.65
6	坂東市	662.76
26	水戸市	619.81
	茨城県	608.84
	県西地域	643.61

計算式：(自家用乗用車台数+軽自動車台数)
÷総人口×1000

資料出所：市区町村別自動車保有車両数(関東運輸局)
市区町村別軽自動車車両数
(全国軽自動車協会連合会)
茨城県常住人口調査(茨城県統計課)

【参考】環境指標・統計：自動車CO2排出量

年間1人当たりCO2排出量

(単位：t/年)

	1980年度	1985年度	1990年度	1994年度	1999年度	2005年度
全国	1.09	1.18	1.33	1.54	1.80	1.78
茨城県	1.11	1.32	1.52	1.55	1.98	2.02
坂東市						3.23
岩井市	1.37	1.24	1.77	1.20	2.33	
猿島町	0.23	1.33	2.04	1.98	2.44	
境町	1.12	1.38	1.97	1.50	2.16	1.58
五霞町	1.30	0.89	1.47	2.26	2.88	2.75
古河市						2.04
古河市	1.19	1.26	1.00	1.14	1.47	
総和町	1.04	1.17	1.48	1.74	2.22	
三和町	1.35	0.92	1.46	1.66	2.45	
八千代町	1.71	1.89	2.46	1.81	2.67	2.15
常総市						2.34
水海道市	1.31	1.76	1.37	1.85	2.58	
石下町	1.15	1.59	1.02	2.27	2.34	
下妻市						3.40
下妻市	1.31	1.80	2.04	1.84	2.24	
千代川村	1.52	1.74	2.27	2.08	1.94	
野田市						1.46
野田市	0.86	0.95	1.28	1.40	3.82	
関宿町	1.33	0.73	1.18	1.64	2.28	

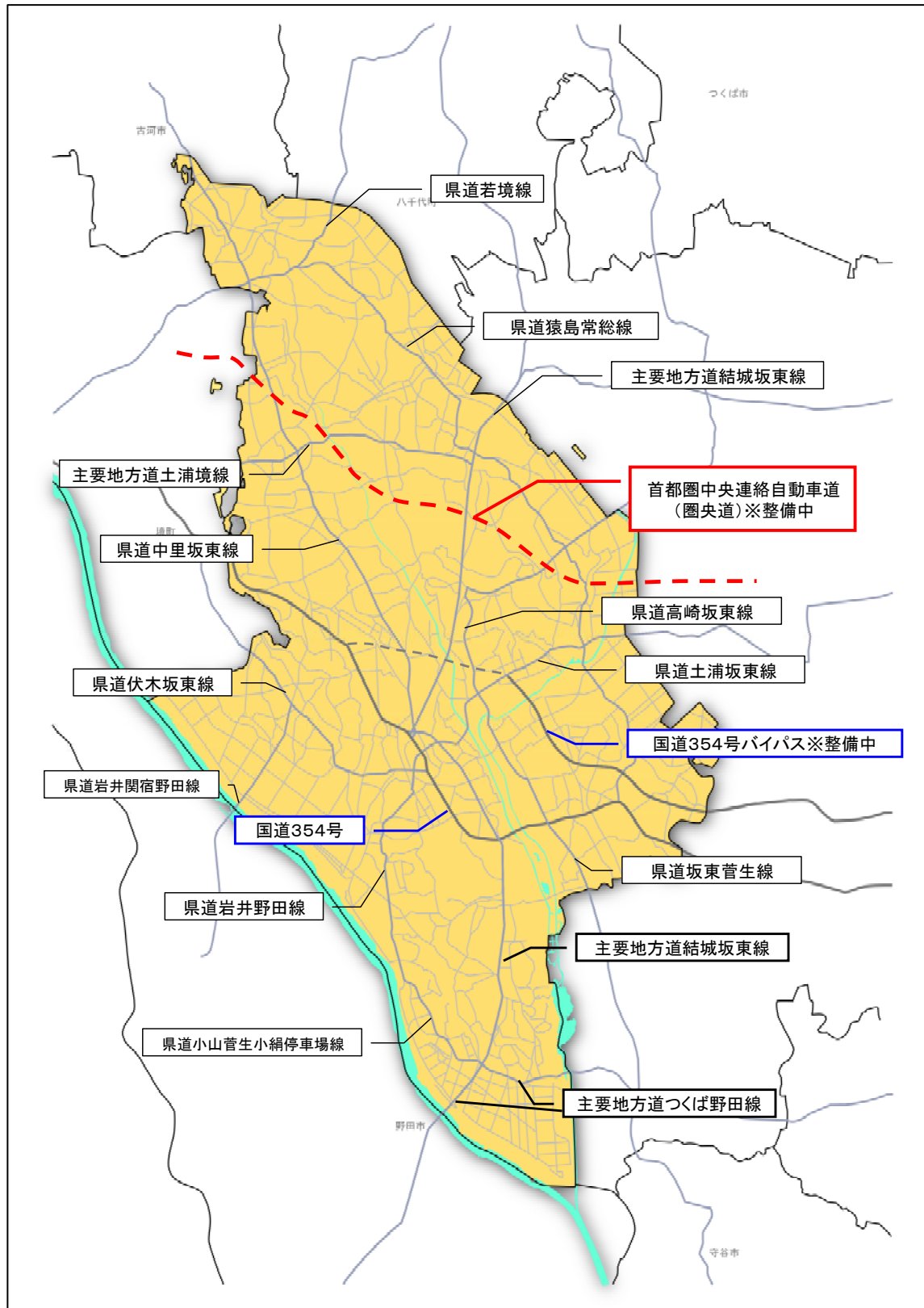
(独立行政法人 国立環境研究所HPを基に作成)

備考

- 1 道路交通センサス自動車起終点調査(OD調査)をもとに推計。
- 2 年間総CO2排出量は、自動車が登録されている市区町村別に、車種別平日休日別の1日の走行距離(走行台キロ)を集計し、平日休日年間日数と車種別二酸化炭素排出係数を乗じて推計した値
- 3 年間1人当たり排出量は、年間総CO2排出量を当該年度末時点の市区町村の住民基本台帳人口で除した値

(8) 道路の状況

国道354号が東西に横断するとともに、354号バイパスの整備を茨城県と共同で整備を進めている。また、主要地方道3路線、県道10路線が配置されている。さらに、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の整備が進められており、インターチェンジも整備されることから、広域的な道路体系が整備されつつある。



3 現況と課題の整理

(1) 公共交通の経緯

鉄道駅がない本市においては、路線バスが公共交通の中心的役割を担ってきた。昭和40年代には、民間の路線バスが幹線道路を中心に、旧岩井市・旧猿島町を合わせて10を超える系統で運行されるなど、バス交通は地域の足としての役割を果たしていた。しかし、高度経済成長による社会経済情勢の急激な変化により、生活様式が大きく変わり、自家用車が急速に普及したことに伴いバス離れが進み、平成9年には旧岩井市でわずか2系統、旧猿島町では路線バスがないという深刻な状態になった。

しかし、新たな路線バスの形として、平成11年から旧岩井市から東京駅行きの高速バス（平成16年から猿島町まで延長）が運行を開始した。さらに、平成12年から、猿島町、境町、三和町の公共交通空白地域を巡回する昭和観光自動車の「巡回バス」（複数回ルート見直し）、平成17年からはつくばエクスプレスの開業にあわせた守谷駅行きの路線バスの運行が開始された。

行政の地域公共交通施策としては、平成9年から、岩井市において市内の公共施設等を結ぶ無料の福祉巡回バス「ひばり」の運行を開始、猿島町においても事業者と協力し「巡回バス」運行ルートの見直しや運行費の一部を助成するなど各種施策に取り組んできた。



資料：猿島町史通史編

(2) 現在の状況

現在の坂東市における公共交通の状況は、次に述べるとおりである。

ア バス交通の状況

坂東市におけるバス交通の状況は次の表に示すとおりである。運行路線については、平成18年度以降大幅な変更はないものの、高速バス、路線バスについては運行便数が大幅に減便となっている。

バス交通の状況		
種 類	路 線	運 行 主 体
高速バス	常総ルート (東京駅～守谷・水海道・岩井)	関東鉄道(株) 関鉄パープルバス(株)
急行バス	わかば号 (運転免許センター～ つくば・水海道・岩井)	関鉄パープルバス(株) ※月曜～金曜、運転免許 センター休業日運休
路線バス	急行 守谷駅～岩井・猿島	関東鉄道(株)
	水海道駅～岩井バスターミナル	関東鉄道(株) ※休校日全便運休
	岩井車庫～野田市駅	茨城急行自動車(株)
巡回バス	岩井ルート 境ルート	(株)昭和観光自動車 ※休日全便運休
コミュニティバス	生子菅・逆井山ルート 神大実・飯島ルート 七郷・中川ルート 沓掛・内野山ルート 長須・七重ルート	坂東市 } ※月・水・金曜運行 } ※火・木・土曜運行

資料：企画課

イ タクシー事業者の状況

坂東市におけるタクシー事業者数は5社であり、車両の保有台数の合計は22台となっている。平成22年3月31日現在の人口（住民基本台帳）は、56,610人であることから、車両1台当たりの人口は2,831人であり、茨城県が924人、全国が572人であることに比べると、かなり多く、人口に対するタクシーの台数は極めて低い状況にある。

タクシー事業者の状況

(平成22年3月31日現在)

区 分	事業者数	車両台数	人 口	1台当たり
坂東市	5社	22台	56,610人	2,573人
茨城県	450社	3,225台	2,979,139人	924人
全 国	57,013社	222,097台	127,057,860人	572人

資料：事業者数及び車両台数：「全国ハイヤー・タクシー連合会」ホームページより
人口：住民基本台帳人口（平成22年3月31日現在）

ウ 福祉タクシー利用料金助成事業の状況

「障害者福祉タクシー利用料金助成事業」は、歩行が困難な障害者が医療機関等への通院でタクシーを利用する際に、初乗り料金を助成する制度であり、「ひとり暮らし高齢者等福祉タクシー利用料金助成事業」は、ひとり暮らしの高齢者及び交通手段を持たない高齢者のみの世帯に、医療機関などへの往復に要するタクシー料金の一部を助成するものである。

「障害者福祉タクシー利用料金助成事業」については、平成１８年度からの利用がほぼ横ばいとなっているが、「ひとり暮らし高齢者等福祉タクシー利用料金助成事業」については、平成１８年度と平成２２年度を比較すると、利用者が６５人、助成額で９０７，３７０円の増となっている。

福祉タクシー利用事業の状況

区 分	年度	区分	申請者	使用枚数	助成額	助成額計
障害者福祉タクシー利用事業	H18	身 体	55人	672枚	590円	396,480円
		精神等	7人	71枚	660円	46,860円
	H19	身 体	48人	717枚	590円	423,030円
		精神等	5人	53枚	660円	34,980円
	H20	身 体	63人	825枚	640円	528,000円
		精神等	5人	41枚	710円	29,110円
	H21	身 体	51人	673枚	640円	430,720円
		精神等	6人	7枚	710円	4,970円
	H22	身 体	59人	784枚	640円	501,760円
		精神等	6人	26枚	710円	18,460円
ひとり暮らし高齢者等福祉タクシー利用事業	H18		182人	2,428枚	660円	1,602,480円
	H19		184人	2,765枚	660円	1,824,900円
	H20		203人	2,773枚	710円	1,968,830円
	H21		220人	3,125枚	710円	2,218,750円
	H22		247人	3,535枚	710円	2,509,850円

資料：社会福祉課、介護福祉課

(3) コミュニティバスの利用状況

ア 運行の経緯

岩井市猿島町合併協議会において、合併後の新市のまちづくりの基本となる「坂東市建設計画」（以下「建設計画」という。）が策定された。坂東市では既存の施設を有効利用すべく分庁方式を採用し、岩井・猿島両庁舎に市役所機能を分散して事業を行っている。

「建設計画」では、合併により分散化した施設、新たに利用可能となった公共施設の利用、両地域間の交流の活性化・一体感の醸成、交通弱者の移動手段の確保のためのコミュニティバスの運行が計画され、平成17年度からコミュニティバス検討委員会を組織し、運行についての協議を重ね、平成18年11月より坂東市コミュニティバス「坂東号」の運行を開始した。

運行経路は、市内を循環する5つのルートからなり、運行時間は各ルートともおおむね1時間30分程度となっている。

コミュニティバスの運行状況（平成22年4月1日～）

ルート名	運行距離	運行時間	運行日
生子菅・逆井山ルート	47.5km	1時間40分	月・水・金
沓掛・内野山ルート	39.7km	1時間25分	火・木・土
神大実・飯島ルート	33.5km	1時間30分	月・水・金
七郷・中川ルート	32.3km	1時間25分	火・木・土
長須・七重ルート	41.9km	1時間35分	月・水・金

資料：企画課

※生子菅・逆井山ルート、七郷・中川ルートは小学生が登下校時に利用

イ 運行内容の変遷

(ア) 当初運行内容（平成18年11月1日～）

運行開始当初は、新施策への移行期間として福祉巡回バス「ひばり」を平行して運行していたこともあり、利用者数は伸び悩んでいた。無料乗車券や利用案内などの発行により利用者獲得に努めたことにより、利用者は僅かながら増加傾向にはあった。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・運行日：年末年始（12/29～1/3）を除く毎日運行・運行ルート：5ルート・運行本数：各ルート1日4便・運行車両：25人乗り小型ノンステップバス3台（市所有）・運賃：1乗車100円（割引有） |
|--|

(イ) 運行計画の見直し①（平成20年4月1日～）

地域等からの要望等を受け運行計画の見直しを行った。このことにより特に通学利用によりコミュニティバス利用者は増加したが、日中の利用については、依然として少ない状況が続いた。

○主な変更点

・生子菅・逆井山ルート

路線の変更：七重小学校への通学に対応・逆井城跡公園への乗り入れ

・七郷・中川ルート

路線の変更：七郷小学校への通学に対応

・全ルート

中心市街地での路線の変更：運行時間の短縮等

(ウ) 運行計画の見直し②（平成22年4月1日～）

利用状況や利用者等からの意見を集約した結果、再度、大幅な運行計画の見直しを行った。

○主な変更点

・運行日：各ルート隔日（日曜・年末年始を除く。）

・運行本数：各ルート1日6便

コミュニティバスの利用状況

年度	利用者数	運行日数	運行便数	月平均	日平均	1便平均
H18	7,732人	145日	2,900便	1,546.40人	53.32人	2.67人
H19	25,853人	360日	7,200便	2,154.42人	71.81人	3.59人
H20	37,301人	359日	7,180便	3,108.42人	103.90人	5.20人
H21	35,401人	359日	7,180便	2,950.08人	98.61人	4.93人
H22	28,276人	308日	4,882便	2,356.33人	91.81人	5.79人

資料：企画課

※H18～H21は、毎日5ルート（各4便）運行

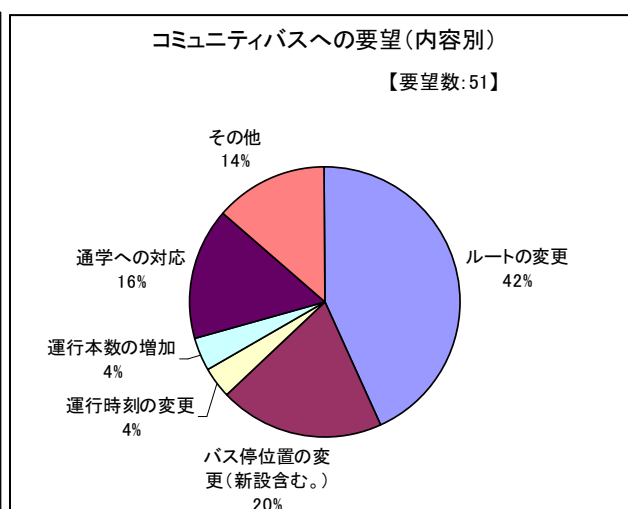
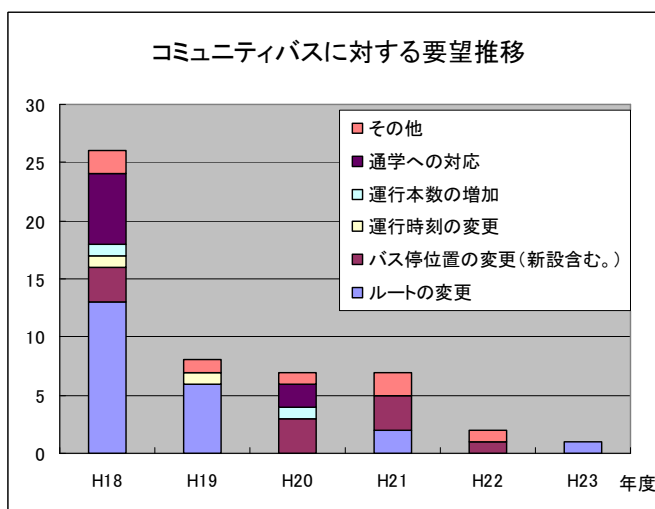
H22は、月水金3ルート（各6便）運行、火木土は2ルート（各6便）運行

《コミュニティバス運行内容に対し寄せられた要望》

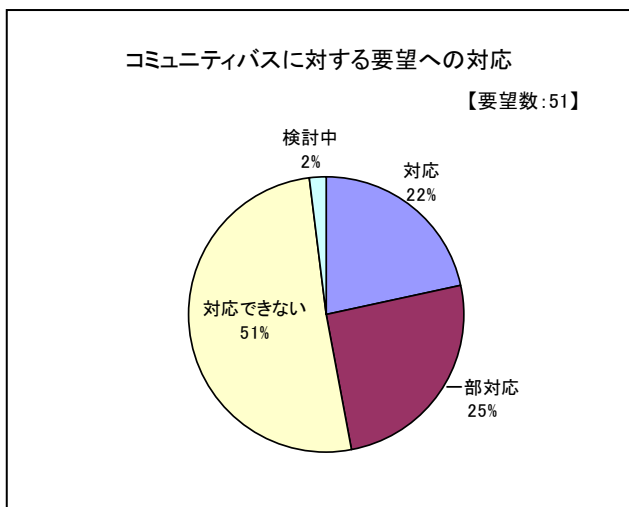
No	要望数	年度	種別	対応	理由
1	1	18	ルートの変更	○	
2	2	18	ルートの変更	○	
3	3	18	ルートの変更	×	路線バスとの重複
4	4	18	バス停位置の変更	×	停車位置の確保困難
5	5	18	ルートの変更	×	ルートの設定が困難(乗車時間が大幅に延びる。)
6	6	18	バス停位置の変更	×	道路状況
7	7	18	増車	×	予算
8	8	18	運行時刻の変更	△	時間帯の変更を行ったが、要望どおりではない。
9	9	18	ルートの変更	×	ルートの設定が困難(乗車時間が大幅に延びる。)
10	10	18	ルートの変更	○	
	11		乗車時間短縮(幹線道路のみ運行)	×	
11	12	18	ルートの変更	×	道路状況
12	13	18	ルートの変更	×	道路状況
13	14	18	ルートの変更	×	道路状況
14	15	18	小学校スクールバス	△	一部小学校で対応
15	16	18	小学校スクールバス	△	一部小学校で対応
16	17	18	ルートの変更	×	道路状況
17	18	18	ルートの変更	×	ルートの設定が困難(乗車時間が大幅に延びる。)
18	19	18	バス停位置の変更	○	
19	20	18	小学校スクールバス	△	一部小学校で対応
20	21	18	運行日数の減及び運行回数の増	○	
21	22	18	臨時バス	△	イベント時シャトルバスとして利用
22	23	18	小学校スクールバス	△	一部小学校で対応
23	24	18	小学校スクールバス	△	一部小学校で対応
24	25	18	高校への通学(運行時刻)	×	小学生優先
	26		ルートの変更	×	道路状況
25	27	19	ルートの変更	△	一部対応
26	28	19	ルートの変更	×	民間路線バスと重複する。
	29		ルートの変更(時間の短縮)	×	
	30		フリー乗降	×	
27	31	19	運行時刻の変更	△	一部対応※時間帯の変更を行ったが、要望どおりではない。
28	32	19	ルートの変更	○	
29	33	19	ルートの変更	△	一部対応※道路状況等により全て対応は不可
30	34	19	ルートの変更	×	道路状況

No	要望数	年度	種別	対応	理由
31	35	20	高校への通学	×	小学生優先
32	36	20	バス停位置の変更	○	
33	37	20	バス停の新設	○	
34	38	20	運行本数の増加	○	
35	39	20	定期乗車券の発行	○	
36	40	20	バス停位置の変更	○	
37	41	20	高校への通学(時刻・ルートの変更)	×	小学生優先
38	42	21	ルートの変更	△	一部対応※道路状況等により全て対応は不可
39	43	21	バス停位置の変更	×	乗降場所が確保できない。
40	44	21	ベンチの設置	×	スペースの確保が困難
41	45	21	回り方の変更	×	
42	46	21	バス停位置の変更	×	乗降場所が確保できない。
43	47	21	ルートの変更(時間の短縮)	×	
44	48	21	バス停位置の変更	△	一部対応
45	49	22	バス停位置の変更	△	一部対応※要望どおりの場所ではない。
46	50	22	通学時の車両の大型化	×	コミュニティバス事業の枠を逸脱
47	51	23	ルートの変更	—	

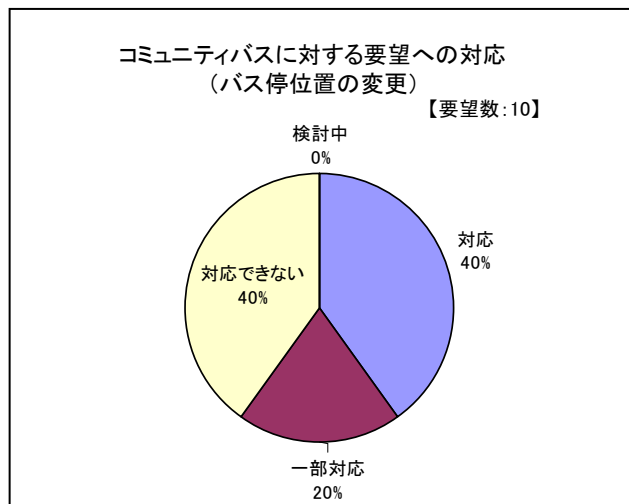
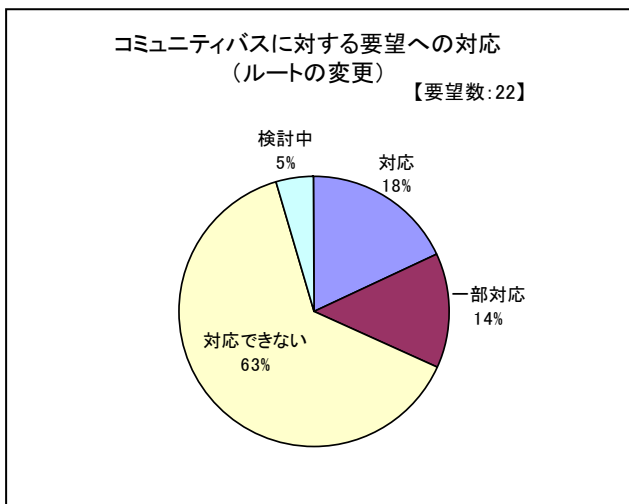
○要望



○対応



- ・ 対 応 :
要望に完全に対応した場合
- ・ 一部対応 :
要望の一部に対応した場合



ウ ルートごとの運行状況

(ア) 生子菅・逆井山ルート

○総延長：約47.5km	○所要時間：約100分
○運行日：月・水・金曜	○1日の運行本数：6便
○停留所数：61か所	

○特徴

- ・全5ルート中最長の路線で、岩井庁舎・猿島庁舎を結び、さしま健康交流センターへ乗り入れている。
- ・路線の一部が「巡回バス」と重複している。

○分析

- ・平成20年から七重小学校の通学に利用されているため、その後の利用者数は5ルート中最も多くなっている。しかし、通学区間を除くと利用者は非常に少ない。
- ・中心市街地のバス停や、坂東市・古河市により運営されている「清水丘診療所」での乗降が少ないことなどから、日常の買物や医療機関などへの通院が、市内ではなく地理的に近い古河市や境町において行われていることが推測される。

生子菅・逆井山ルート年度別利用状況

(単位:人)

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	計
年間利用者数	1,289	4,803	12,254	10,825	10,302	39,473
内通学区間			8,885	7,245	7,735	23,865
内その他			3,369	3,580	2,567	9,516
年間運行便数	580	1,440	1,436	1,436	1,067	5,959
内通学区間			1,436	1,436	1,067	3,939
内その他			1,436	1,436	908	3,780
1便当たり	2.22	3.34	8.53	7.54	9.66	6.62
内通学区間			6.19	5.05	7.25	6.06
内その他			2.35	2.49	2.83	2.52

※H18年度は18年11月～19年3月までの5か月間

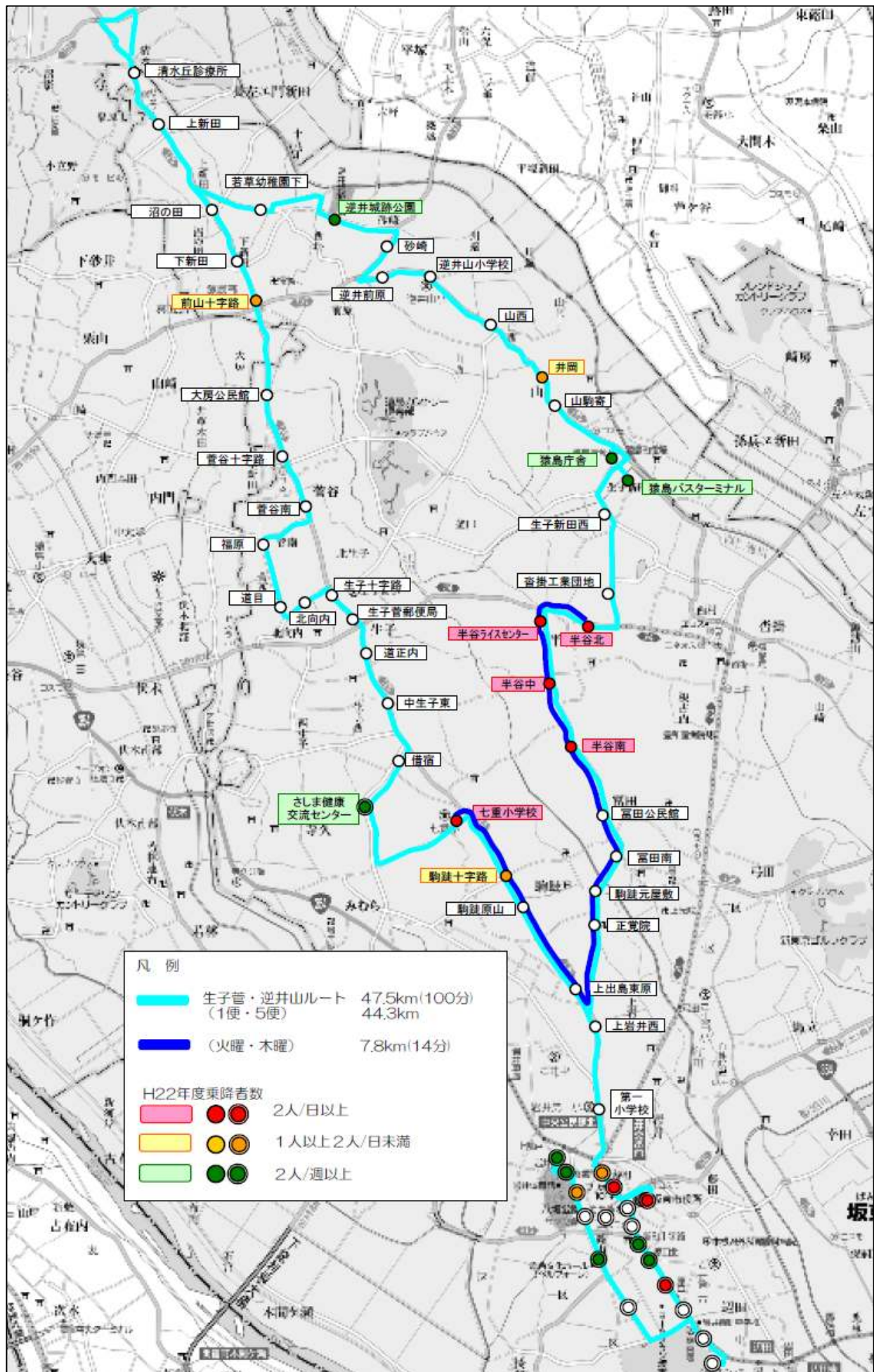
※通学区間は「七重小学校」「半谷北」「半谷ライスセンター」「半谷中」「半谷南」での乗車者数の合計

※H22運行便数は重複あり。

平成22年度バス停別乗降者数(上位15か所)

(単位:人)

順位	名 称	のり	おり	計	順位	名 称	のり	おり	計
1	七重小学校	2,538	4,879	7,417	9	駒跼十字路	49	236	285
2	半谷北	1,924	524	2,448	10	前山十字路	117	144	261
3	半谷ライスセンター	1,288	743	2,031	11	岩井地区交番	46	116	162
4	半谷中	1,272	667	1,939	12	駒跼原山	45	110	155
5	半谷南	713	607	1,320	13	井岡	66	88	154
6	原口	604	212	816	14	岩井バスターミナル	40	106	146
7	本町	301	189	490	15	ベルフォーレ	77	53	130
8	岩井庁舎	191	173	364					



(イ) 沓掛・内野山ルート

○総延長：約39.7km ○所要時間：約85分
 ○運行日：火・木・土曜 ○1日の運行本数：6便
 ○停留所数：53か所

○特徴

・岩井庁舎と猿島庁舎を結び、路線の一部が「巡回バス」と重複している。

○分析

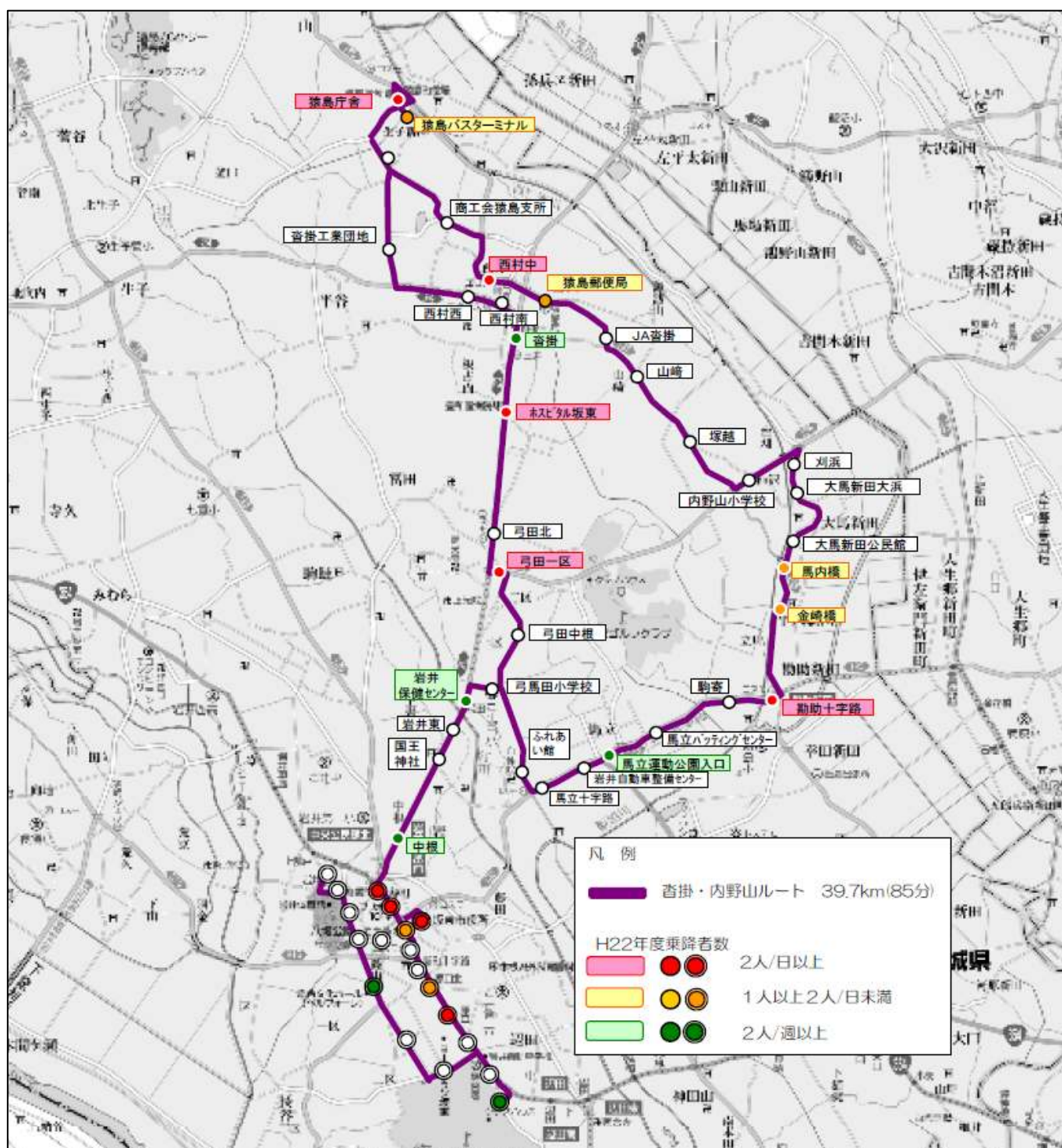
・平成19年度以降、平均利用者数は1便当たり4人程度で安定している。
 ・路線上にある「ホスピタル坂東」の利用者が多い。

沓掛・内野山ルート年度別利用状況						
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	(単位:人) 計
年間利用者数	1,713	6,063	5,978	5,934	4,145	23,833
年間運行便数	580	1,440	1,436	1,436	920	5,812
1便当たり	2.95	4.21	4.16	4.13	4.51	4.10

※H18年度は18年11月～19年3月までの5か月間

平成22年度バス停別乗降者数(上位15か所)

					(単位:人)
順位	名 称	のり	おり	計	
1	本町	674	582	1,256	
2	原口	518	471	989	
3	猿島庁舎	241	308	549	
4	ホスピタル坂東	294	206	500	
5	勘助十字路	270	224	494	
6	岩井地区交番	106	251	357	
7	弓田一区	173	180	353	
8	西村中	154	198	352	
9	岩井庁舎	165	172	337	
10	猿島郵便局	118	117	235	
11	金崎橋	119	101	220	
12	岩井局前	88	107	195	
13	猿島バスターミナル	113	73	186	
14	馬内橋	95	85	180	
15	原口北	40	119	159	



(ウ) 神大実・飯島ルート

○総延長：約33.5km	○所要時間：約90分
○運行日：月・水・金曜	○1日の運行本数：6便
○停留所数：52か所	

○特徴

- ・市東部方面を民間路線バスとの競合を避けるような形で巡回している。

○分析

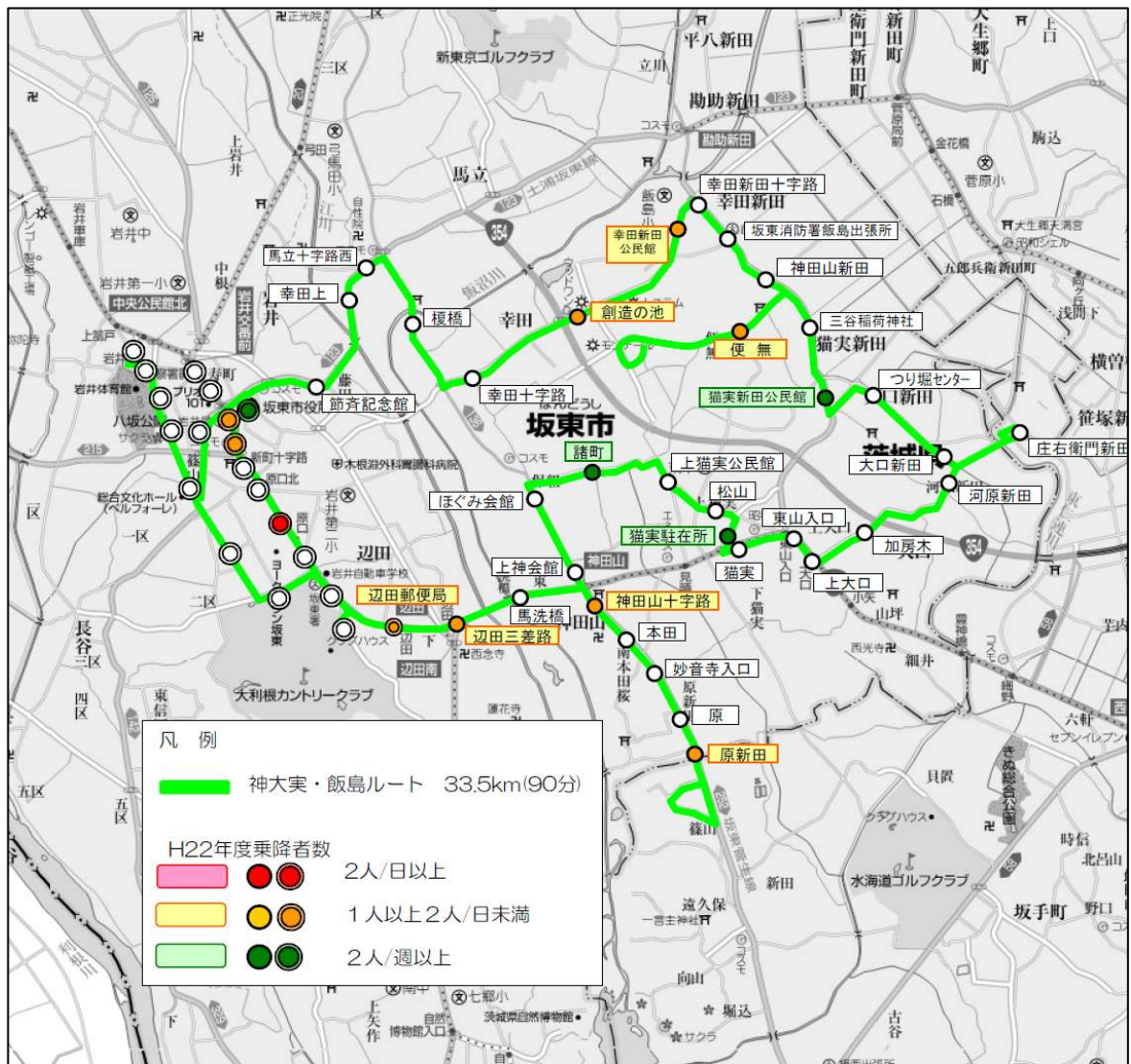
- ・利用者が最も少ない。幹線道路上を水海道駅行きの路線バスが運行しているため隣接する常総市において日常の買物や通院を行っているということが推測される。

神大実・飯島ルート年度別利用状況						
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	(単位:人) 計
年間利用者数	1,089	2,896	2,480	2,654	2,463	11,582
年間運行便数	580	1,440	1,436	1,436	908	5,800
1便当たり	1.88	2.01	1.73	1.85	2.71	2.00

※H18年度は18年11月～19年3月までの5か月間

平成22年度バス停別乗降者数(上位15か所)

(単位:人)				
順位	名 称	のり	おり	計
1	原口	513	418	931
2	新町	142	104	246
3	幸田新田公民館	96	139	235
4	原新田	161	72	233
5	創造の池	114	112	226
6	辺田郵便局	54	159	213
7	便無	140	73	213
8	夢積館	83	101	184
9	岩井局前	45	126	171
10	神田山十字路	66	92	158
11	辺田三差路	21	132	153
12	諸町	68	79	147
13	岩井庁舎	43	92	135
14	猫実新田公民館	70	55	125
15	猫実駐在所	68	50	118



(エ) 七郷・中川ルート

○総延長：約32.3km	○所要時間：約75分
○運行日：月・水・金曜	○1日の運行本数：6便
○停留所数：55か所	

○特徴

- ・路線上に住宅団地が複数存在しており、民間のバス路線と一部重複している。

○分析

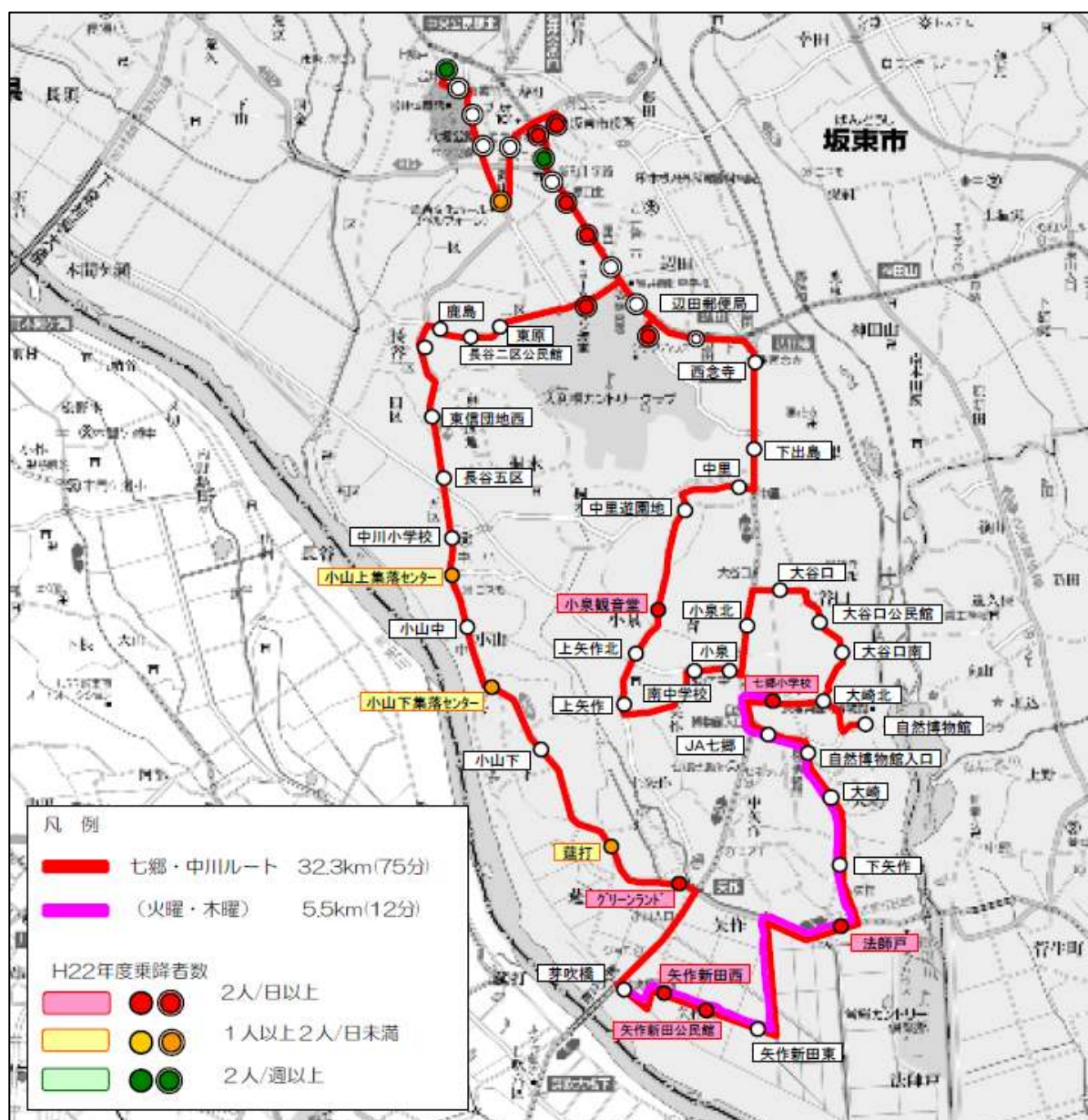
- ・一般の利用者が最も多い。

七郷・中川ルート年度別利用状況						
						(単位:人)
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	計
年間利用者数	2,235	6,677	11,266	11,382	8,415	39,975
内通学区間			4,165	4,889	3,934	12,988
内その他			7,101	6,493	4,481	18,075
年間運行便数	580	1,440	1,436	1,436	1,067	5,959
内通学区間			1,436	1,436	1,067	3,939
内その他			1,436	1,436	908	3,780
1便当たり	3.85	4.64	7.85	7.93	7.89	6.71
内通学区間			2.90	3.40	3.69	3.30
内その他			4.94	4.52	4.94	4.78

※H18年度は18年11月～19年3月までの5か月間
 ※通学区間は「七郷小学校」「法師戸」「矢作新田東」「矢作新田公民館」「矢作新田西」「芽吹橋」での乗車者数の合計
 ※H22運行便数は重複あり。

平成22年度バス停別乗降者数(上位15か所)

									(単位:人)
順位	名 称	のり	おり	計	順位	名 称	のり	おり	計
1	七郷小学校	848	2,658	3,506	9	島原口	137	283	420
2	原口	1,072	799	1,871	10	夢積館	193	223	416
3	グリーンランド	978	885	1,863	11	小泉観音堂	169	178	347
4	法師戸	1,286	356	1,642	12	岩井庁舎	86	229	315
5	矢作新田西	865	362	1,227	13	小山上集落センター	154	117	271
6	矢作新田公民館	797	349	1,146	14	蕤打	98	157	255
7	岩井局前	384	353	737	15	小山下集落センター	123	82	205
8	原口北	288	293	581					



(オ) 長須・七重ルート

○総延長：約41.9km	○所要時間：約95分
○運行日：火・木・土曜	○1日の運行本数：6便
○停留所数：61か所	

○特徴

- ・2番目に長い路線で、さしま健康交流センターに乗り入れている。

○分析

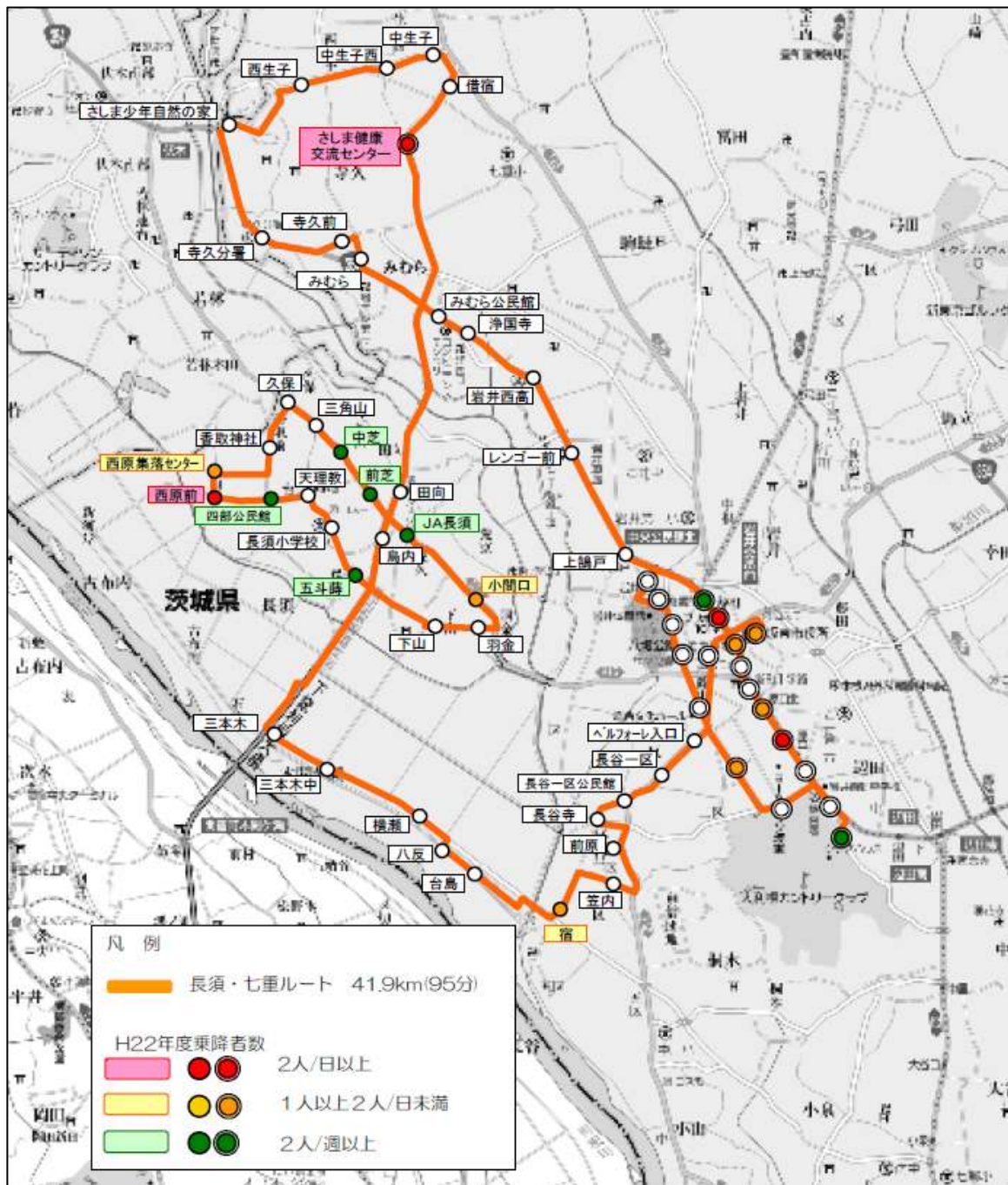
- ・路線全体として利用者は多いとは言えないが、利用が多いバス停、少ないバス停が明確である。

長須・七重ルート年度別利用状況						
	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	(単位:人) 計
年間利用者数	1,406	5,414	5,323	4,606	2,951	19,700
年間運行便数	580	1,440	1,436	1,436	920	5,812
1便当たり	2.42	3.76	3.71	3.21	3.21	3.39

※H18年度は18年11月～19年3月までの5か月間

平成22年度バス停別乗降者数(上位15か所)

(単位:人)				
順位	名 称	のり	おり	計
1	原口	324	266	590
2	本町	61	339	400
3	西原前	198	194	392
4	さしま健康交流センター	152	239	391
5	西原集落センター	127	146	273
6	岩井局前	193	50	243
7	岩井庁舎	106	137	243
8	宿	159	71	230
9	みどり町	194	6	200
10	小間口	113	86	199
11	原口北	64	95	159
12	中芝	115	38	153
13	夢積館	78	63	141
14	第四部公民館	78	62	140
15	五斗蒔	55	68	123



エ まとめ

(ア) 評価すべき点

- 運行開始後 5 年を経過し、民間のバス離れが進む中、利用者は増加傾向にあるなど、僅かずつではあるが地域に定着しつつあり、主に自由に使える移動手段を持たない方の日常生活の足となっている。
- また、コミュニティバス以前に運行していた福祉巡回バス「ひばり」と比較すると、年間利用者は倍増し、その大部分が中心市街地のバス停を利用していることから、中心市街地の活性化の契機を作り出すことができたと言える。
- さらに、交通量の多い道路や、通学路に民家が少ない道路などを利用して通学する児童の登下校に対応することにより、安全を確保できた。

(イ) 改善すべき点

- 路線や運行時刻等により利用したくても利用できない方がいることも事実である。
- 市民の大部分が自家用車を利用できるため、何らかの移動手段が必要な方は多くはないが、市内各地に広く分散し、そのニーズも様々であるため、現在の路線バスという事業形態では、十分に応えることができないことがある。
- また、利用者が少ないため、空車で運行しているケースが多く、バスを利用しない方を中心に費用的な部分から廃止すべきとの意見が多い。
- 以上、コミュニティバスの運行は、当初の目的である交通弱者の日常の足の確保について一定の効果は得られたものの、利用ニーズに十分に対応できていないと言えない。
- 今後は現在の形態にとらわれない、地域の実状に即した地域公共交通施策を展開しなければならない。

4 アンケート調査の実施概要及び結果

(1) アンケート調査の実施概要

ア 調査方法

(ア) 郵便調査

- ・調査対象：坂東市内居住の16歳以上の男女1,500人を無作為抽出
- ・調査方法：郵送による調査票の送付・回収
- ・調査期間：平成22年6月28日～7月20日
- ・対象者内訳

地区名	配布数			割合
	男	女	計	
岩井	181	205	386	25.7%
弓馬田	37	45	82	5.5%
飯島	27	17	44	2.9%
神大実	54	60	114	7.6%
七郷	82	60	142	9.5%
中川	78	64	142	9.5%
長須	50	41	91	6.1%
七重	65	53	118	7.9%
生子菅	57	44	101	6.7%
逆井山	59	64	123	8.2%
沓掛内野山	90	67	157	10.5%
総合計	780	720	1,500	100.0%

《参考：平成22年4月1日住民基本台帳人口》

地区名	住民基本台帳人口			割合
	男	女	計	
岩井	7,381	7,112	14,493	25.6%
弓馬田	1,607	1,481	3,088	5.5%
飯島	850	846	1,696	3.0%
神大実	2,213	2,191	4,404	7.8%
七郷	2,678	2,589	5,267	9.3%
中川	2,665	2,599	5,264	9.3%
長須	1,781	1,727	3,508	6.2%
七重	2,254	2,184	4,438	7.8%
生子菅	1,936	1,878	3,814	6.7%
逆井山	2,436	2,340	4,776	8.4%
沓掛内野山	2,930	2,932	5,862	10.4%
総合計	28,731	27,879	56,610	100.0%

(イ) 対面調査

- ・調査対象：コミュニティバス利用者
- ・調査方法：職員がコミュニティバスに乗車し、対面によりアンケートを実施
- ・調査期間：平成22年7月23日～8月4日

イ 回収結果

(ア) 郵便調査

- ・アンケート票配布数：1,500枚
- ・アンケート票回収数：748枚 回収率：49.9%

(イ) 対面調査

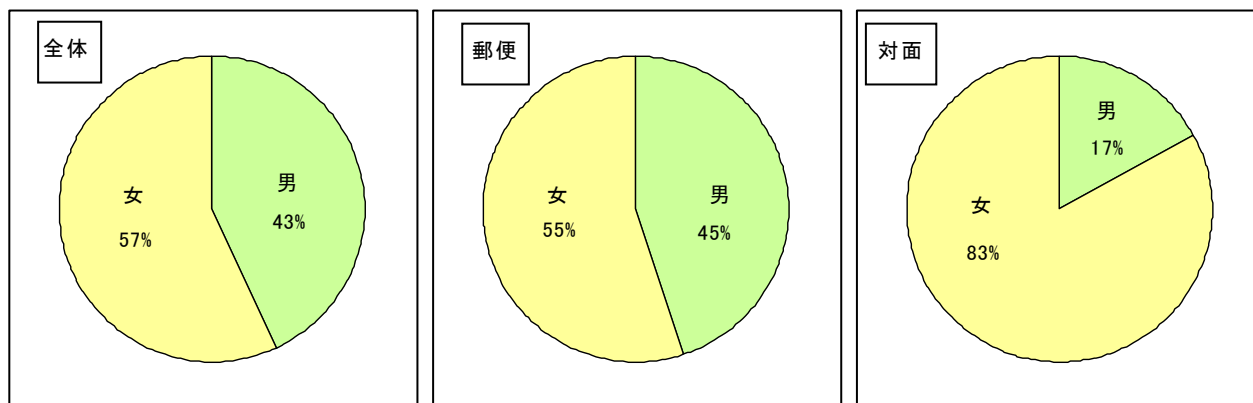
- ・アンケート実施者：53枚（人）

(ウ) アンケート合計：801枚

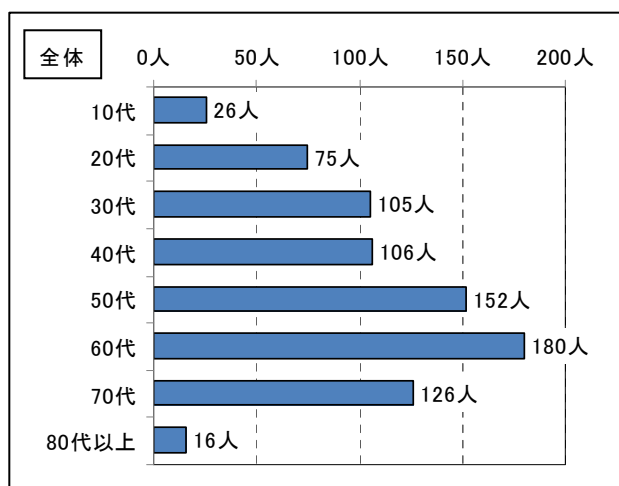
(2) 調査結果

ア 性別について (回答数=796 郵便調査：743・対面調査：53)

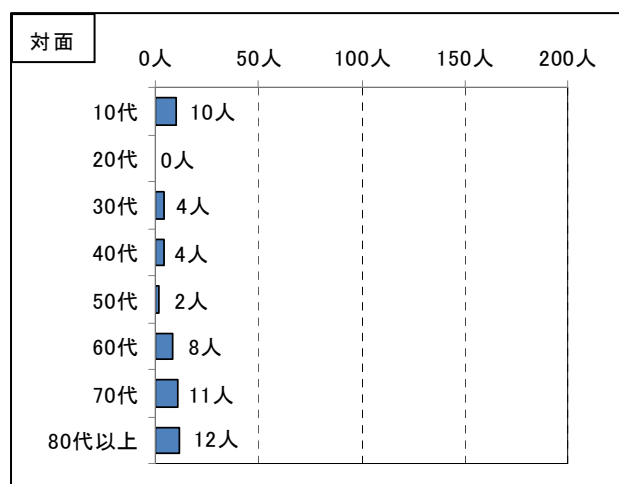
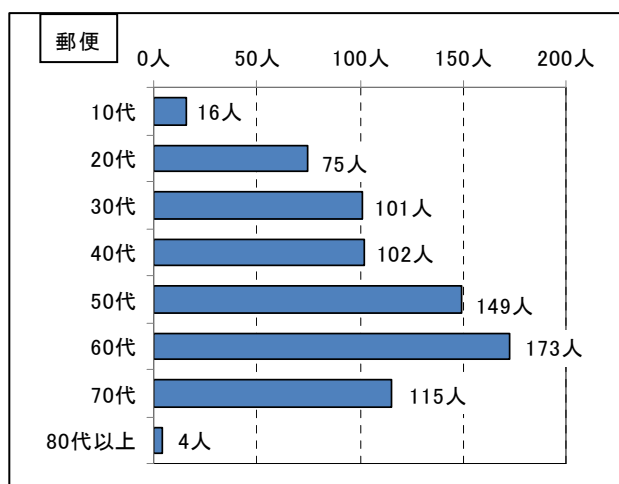
郵便調査では男性が45%・女性が55%と女性の割合が少し高かったのに対し、対面調査においては女性の割合が83%を占めた。



イ 年齢について (回答数=786 郵便調査：735・対面調査：51)



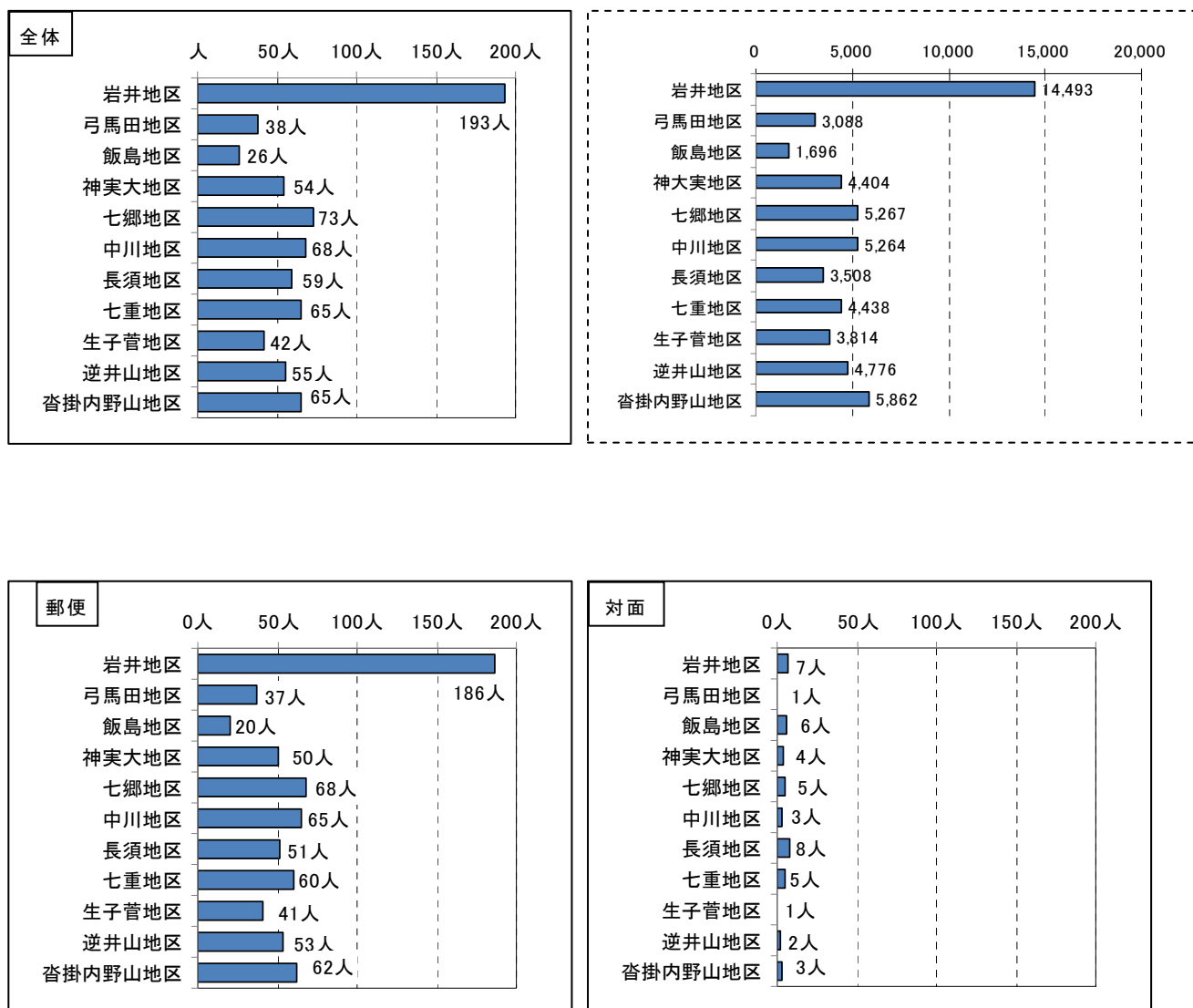
郵便調査では50代から60代までの方が322人で43%を占めており、10代（高校生等）が16人で2%と低かった。対面調査では10代（高校生等）が10人で20%と高く、60代以上の方は31人で60%を占めた。



ウ 住んでいる地域について（回答数=738 郵便調査：693・対面調査：45）

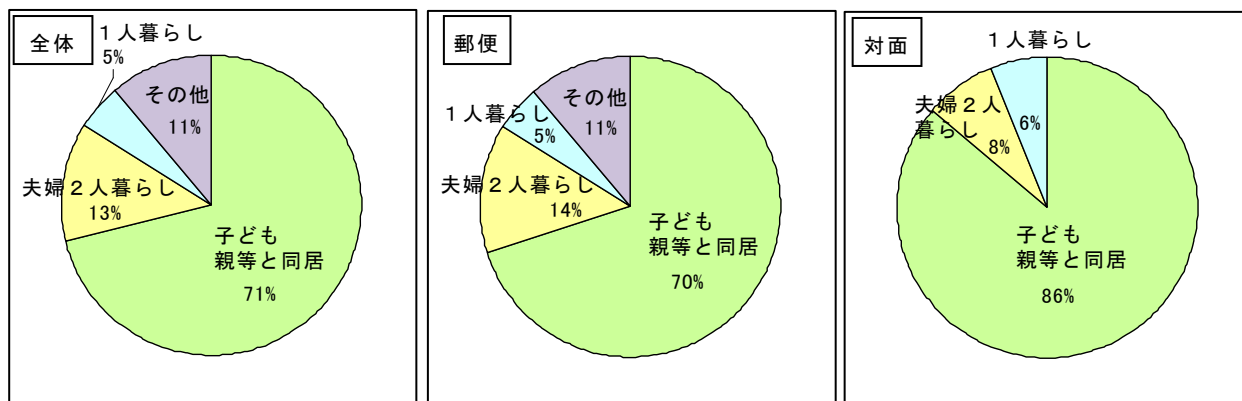
郵便調査では人口構成とほぼ同様であった。対面調査においては、岩井地区が16％と少なく、長須地区が18％と多くなった。

《参考：平成22年4月1日住民基本台帳人口》



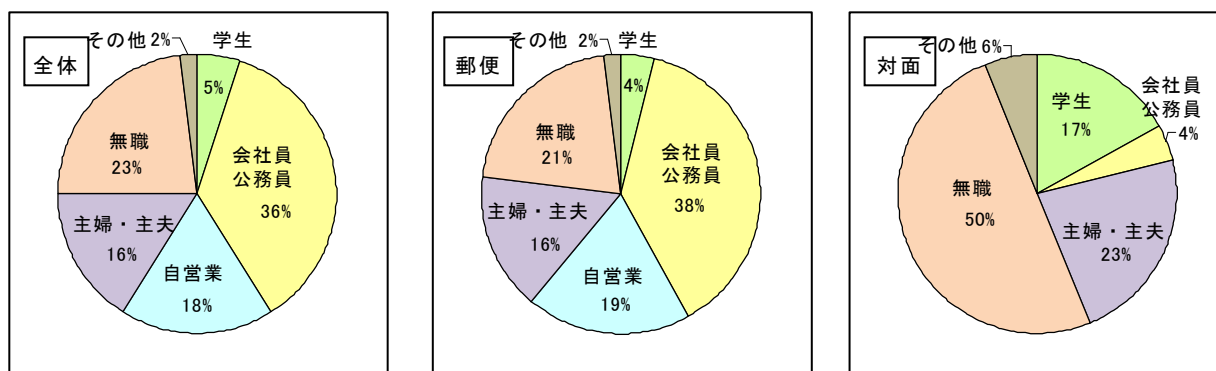
エ 世帯について（回答数=784 郵便調査：736・対面調査：48）

どの調査も子ども親等と同居の世帯が大半を占めた。



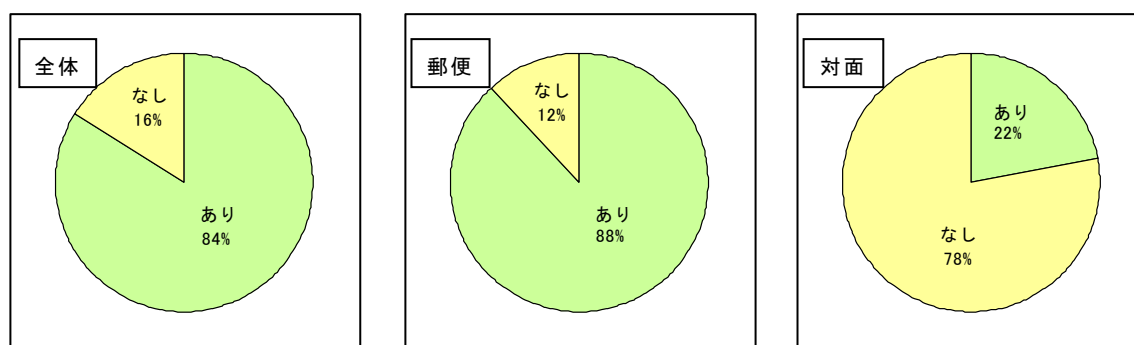
オ 職業について（回答数=779 郵便調査：731・対面調査：48）

郵便調査では会社員・公務員の方が38%と最も多いが、対面調査においては無職の方が最も多く50%を占めた。



カ 運転免許証の所有について（回答数=793 郵便調査：744・対面調査：49）

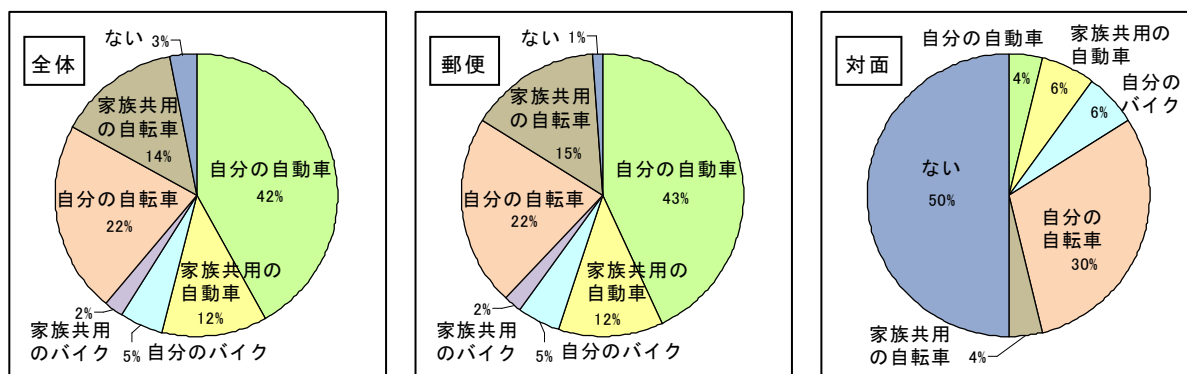
郵便調査では「あり」が88%と大半を占めたのに対し、対面調査においては、「なし」が78%を占めた。



キ 自由に使える移動手段について

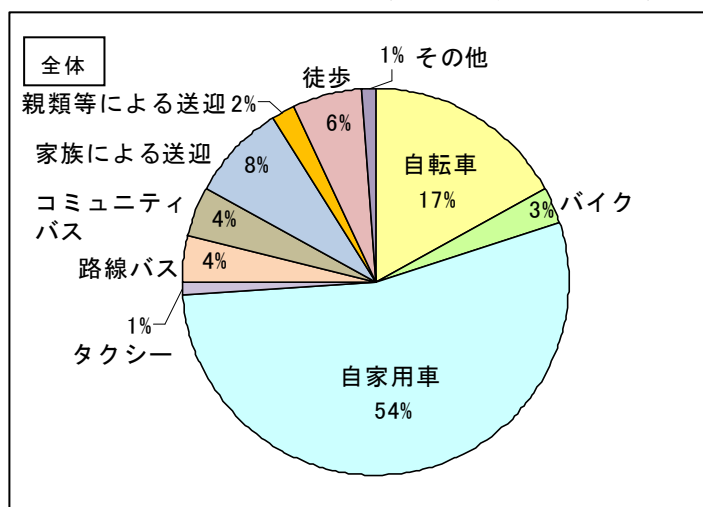
(複数回答：回答数=1,416 郵便調査：1,366・対面調査：50)

郵便調査では「自分で自由に使える自動車がある」が43%と最も多く、「自分で自由に使える自動車・バイク等がない」が1%であったのに対し、対面調査では半分を占めた。

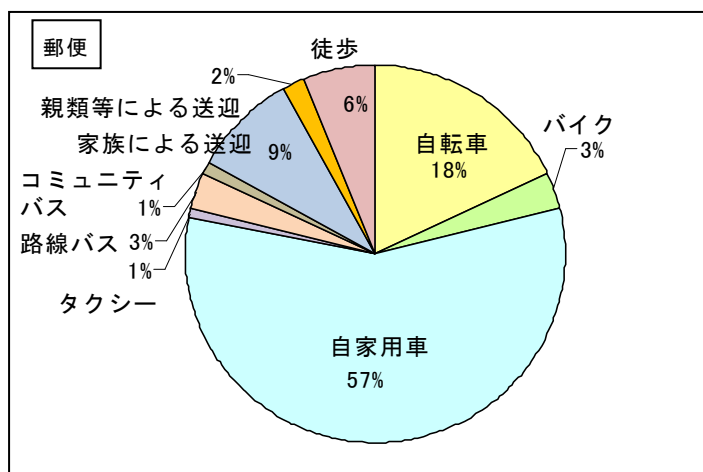


ク 普段、外出する際の主な交通手段について

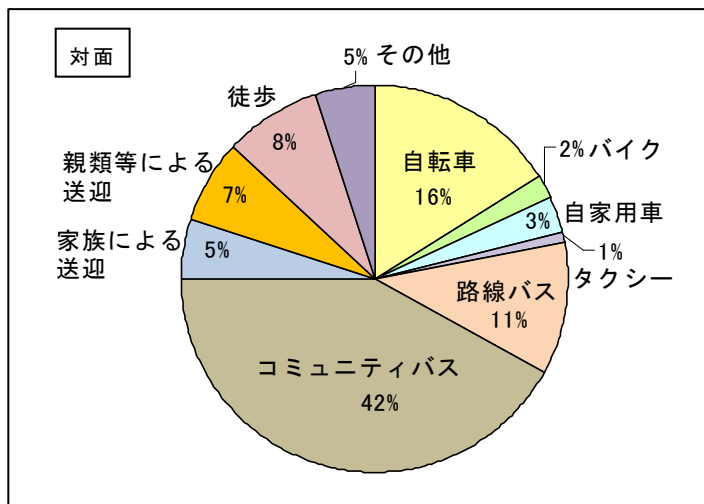
(複数回答：回答数=1,158 郵便調査：1,073・対面調査：85)



全体としては、「自家用車」が54%と最も多く、「自転車」が17%、「バイク」が3%を占め、「コミュニティバス」、「路線バス」、「タクシー」の公共交通については、合わせて9%にとどまった。



郵便調査では、「自家用車」が57%と最も多く、「自転車」が18%、「バイク」が3%を占めた。「コミュニティバス」、「路線バス」、「タクシー」の公共交通については、合わせて5%にとどまった。

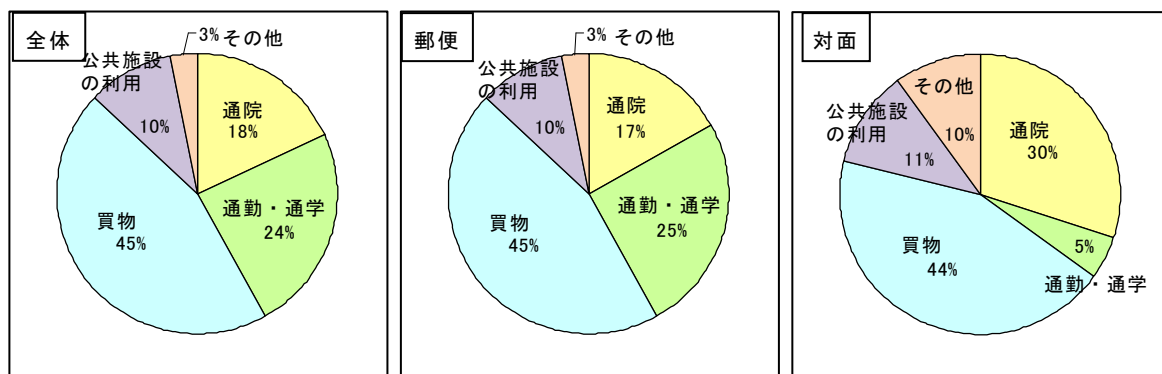


対面調査では、「コミュニティバス」が42%と最も多く、「路線バス」、「タクシー」を合わせた公共交通は54%を占めた。また、「自家用車」、「自転車」、「バイク」については、合わせて21%と少なかった。

ケ 普段の外出目的について

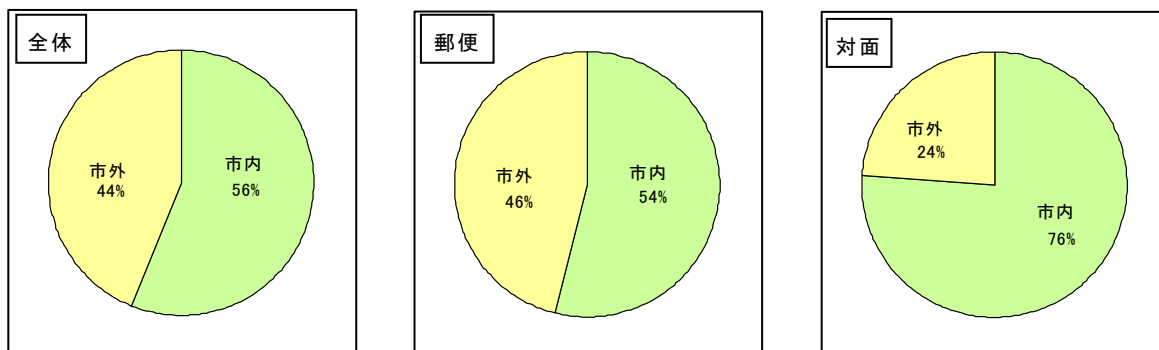
(複数回答：回答数=1,471 郵便調査：1,387・対面調査：84)

外出の目的では、「買物」が最も多くなっており、対面調査においては郵便調査と比較して「通院」が多く、「通勤・通学」が少なかった。



コ 主な目的地について (複数回答：回答数=943 郵便調査：884・対面調査：59)

郵便調査では市内・市外とも約半数ずつであるのに対し、対面調査においては、市内が76%を占めた。

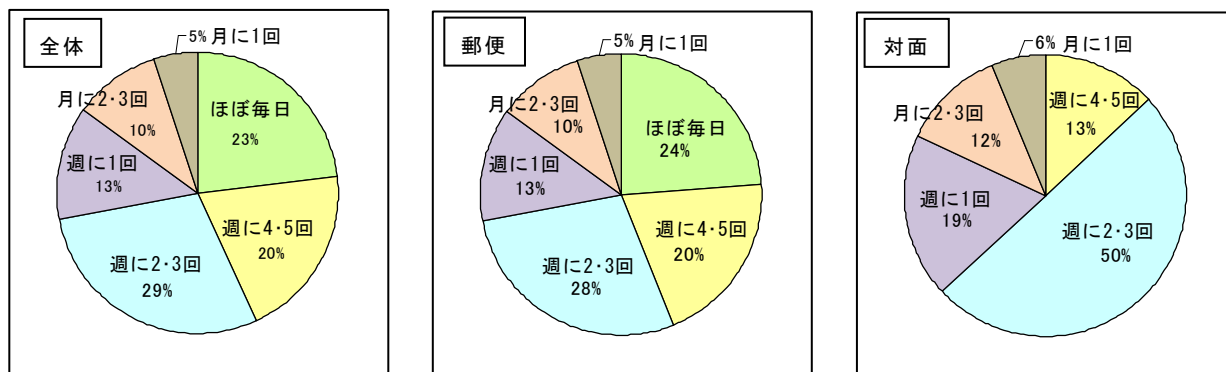


目的地（主な意見）：【市内】商業施設 337、公共施設 89、病院 55

：【市外】守谷市 111、つくば市 99、境町 71、常総市 64、野田市 64

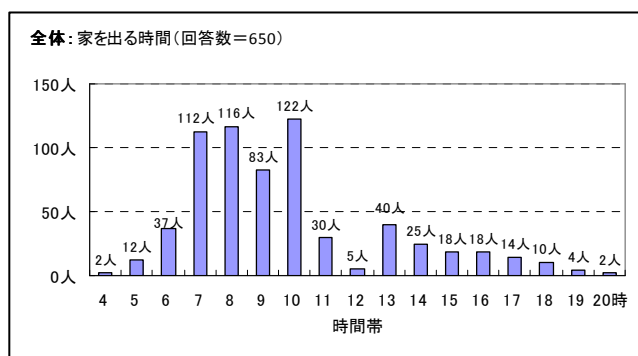
サ 目的地への訪問頻度について（回答数=695 郵便調査：647・対面調査：48）

全体では週に2・3回が最も多く、対面調査においては50％を占めた。

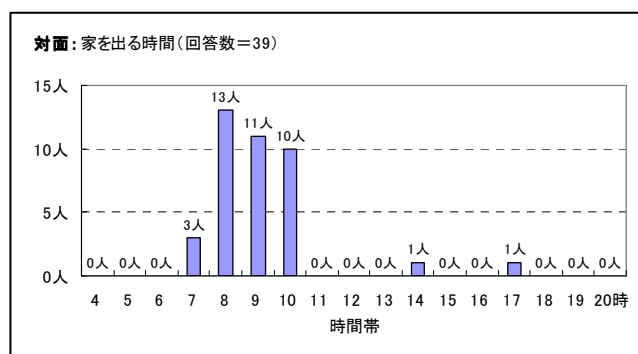
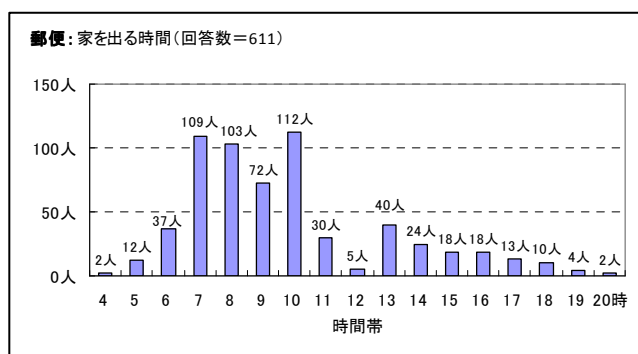


シ 外出時間について

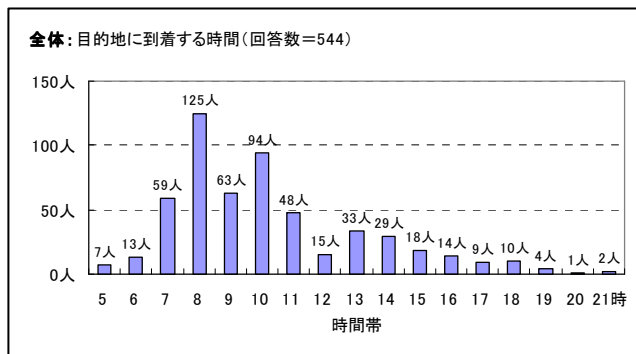
(ア) 家を出る時間（回答数=650 郵便調査：611・対面調査：39）



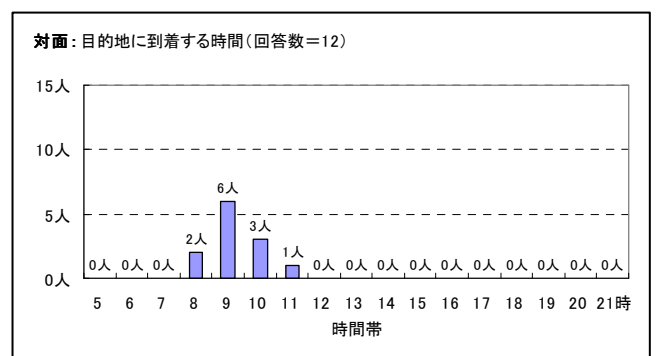
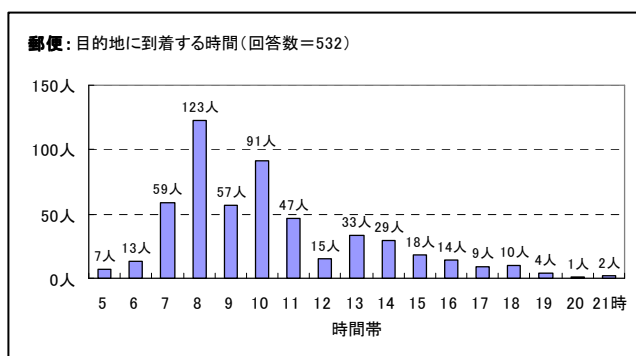
郵便調査では「午前7時～午前10時」が396人で65％を占めた。対面調査では、「午前7時～午前10時」が37人で95％を占めた。



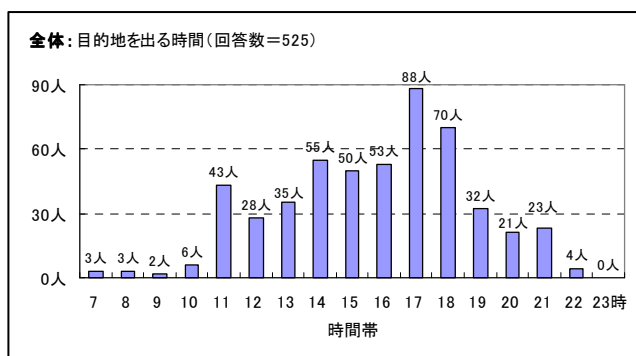
(イ) 目的地に到着する時間（回答数=544 郵便調査：532・対面調査：12）



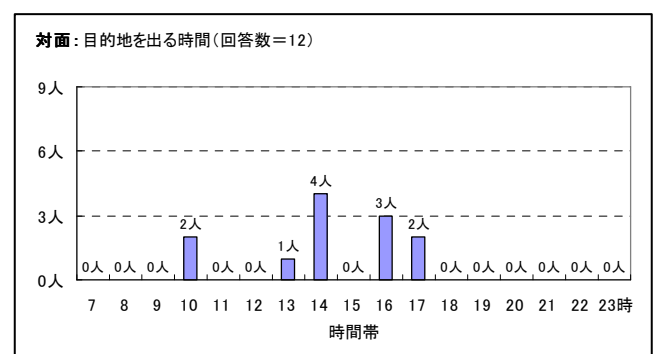
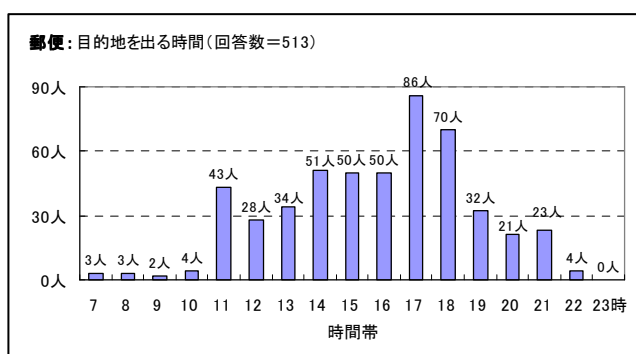
郵便調査では「午前7時～午前10時」が330人で62%を占めた。対面調査においては、「午前8時～午前10時」が11人で92%を占めた。



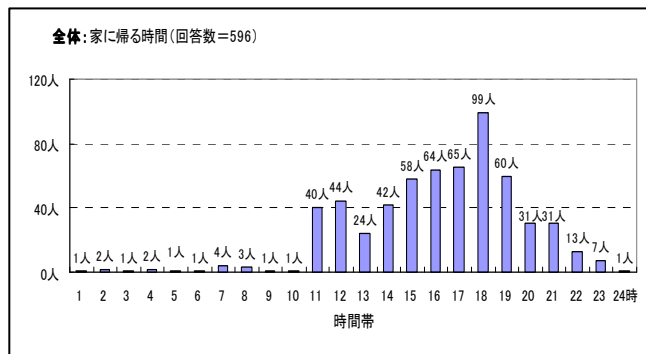
(ウ) 目的地を出る時間（回答数=525 郵便調査：513・対面調査：12）



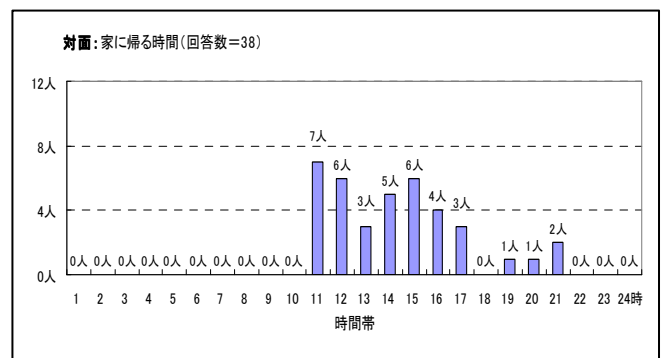
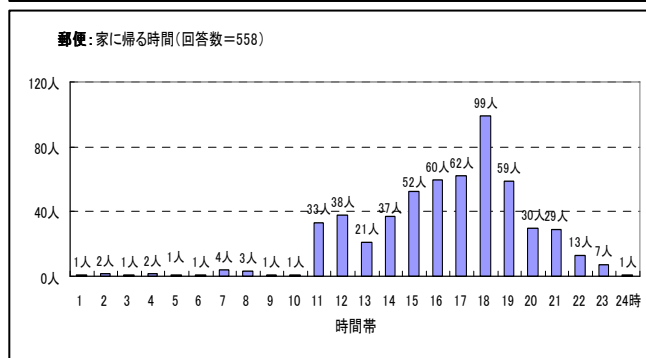
郵便調査では午前11時から多くなり、午後5時が86人で17%と最も多かった。対面調査においては、午後2時が4人で33%と最も多く、次いで午後4時が多かった。



(エ) 家に帰る時間 (回答数=596 郵便調査：558・対面調査：38)

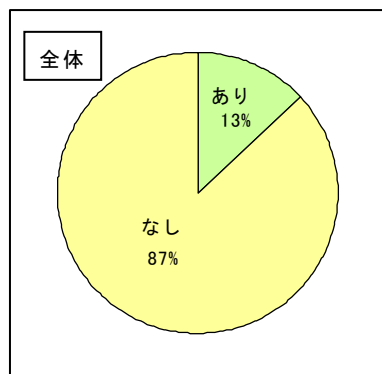


郵便調査では午前 11 時から多くなり、午後 6 時が 99 人で 18% と最も多かった。対面調査においては、午前 11 時が 7 人で 18% と最も多く、午後 5 時までの 34 人で 89% を占めた。

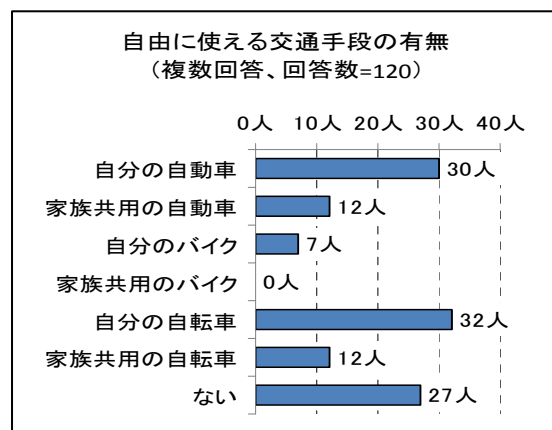
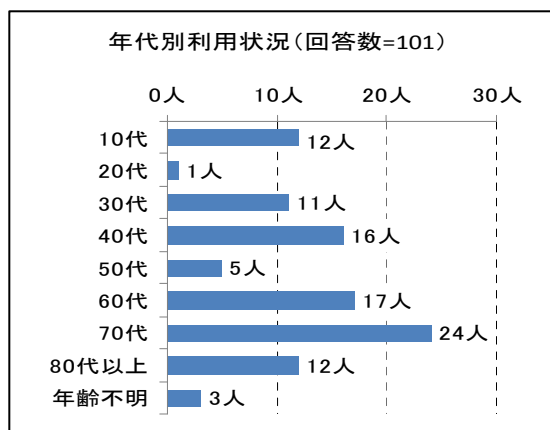


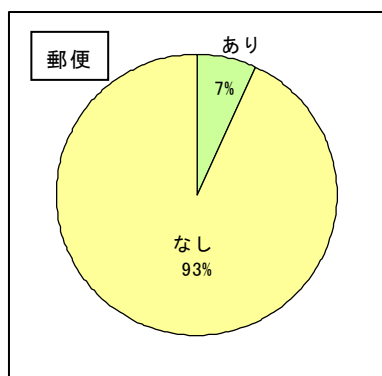
ス コミュニティバス「坂東号」の利用について

(回答数=791 郵便調査：738・対面調査：53)

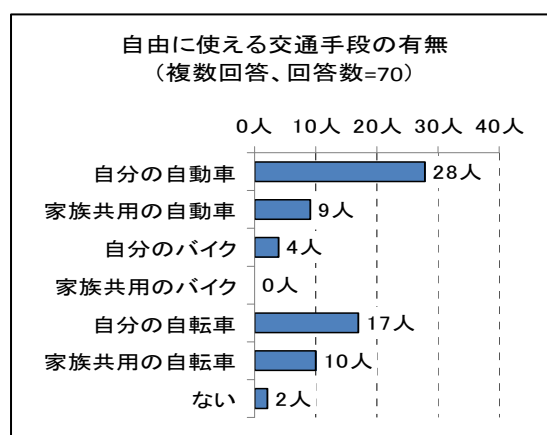
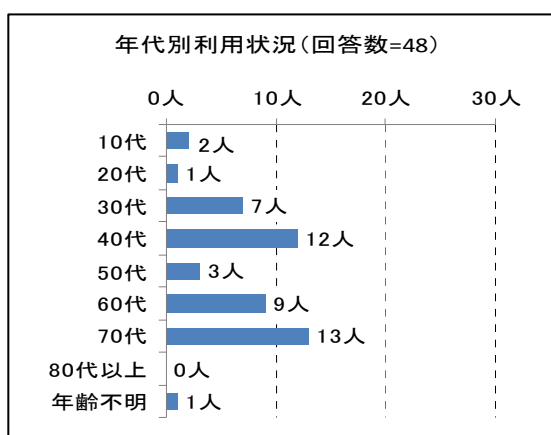


「ある」の割合は、全体で 13% と少なかった。うち、年代別の利用状況をみると 60 代以上が 53 人で 52% を占めている。コミュニティバスを利用したことが「ある」と回答した人について自由に使える交通手段の有無についてみると、59% の人が「自転車」か、「交通手段がない」と答えている自分専用の交通手段を持たない人は、計 51 人で 42% を占めた。

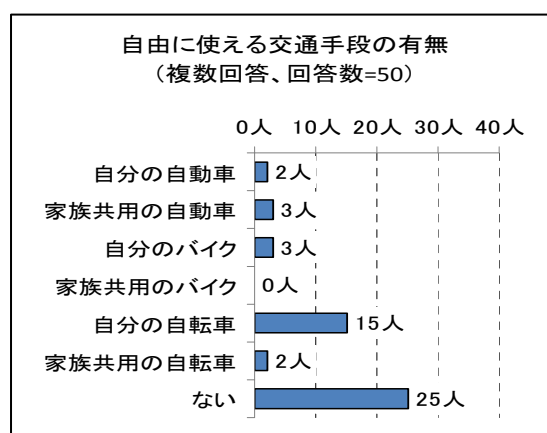
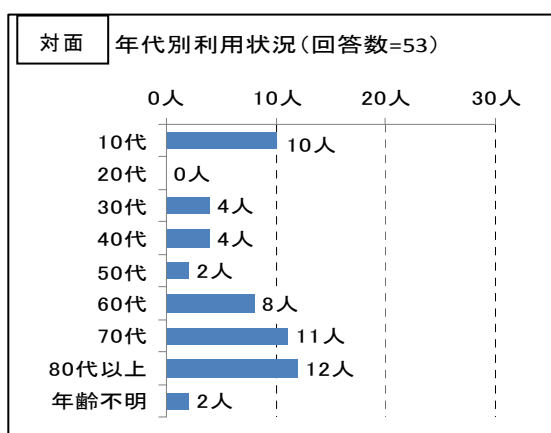




郵便調査では「ある」の割合は7%と更に少なくなり、うち、年代別の利用状況をみると70代が13人で27%と最も多く、次いで40代となっている。「自転車」か「交通手段を持たない」人の割合は41%となっている。



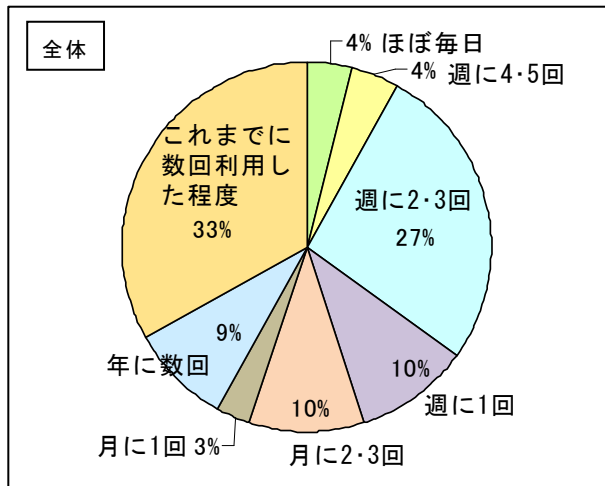
対面調査では10代が10人で19%、60代以上が計31人で59%を占めた。10代(高校生等)や高齢者の利用が大半を占めていることがわかる。また、対面調査における回答者50人のうち30人の60%が「自分専用の交通手段がない」と答えている。



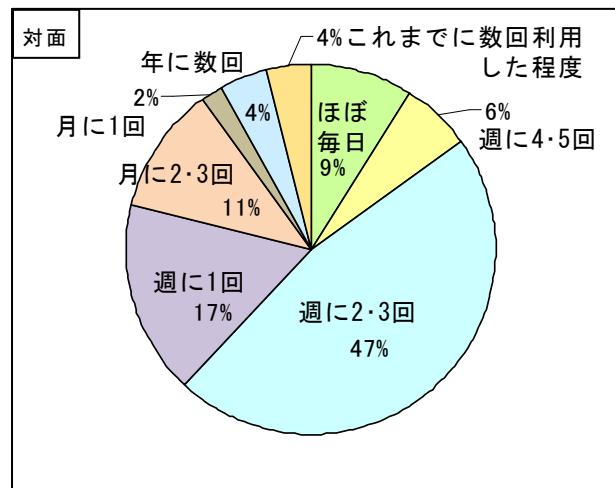
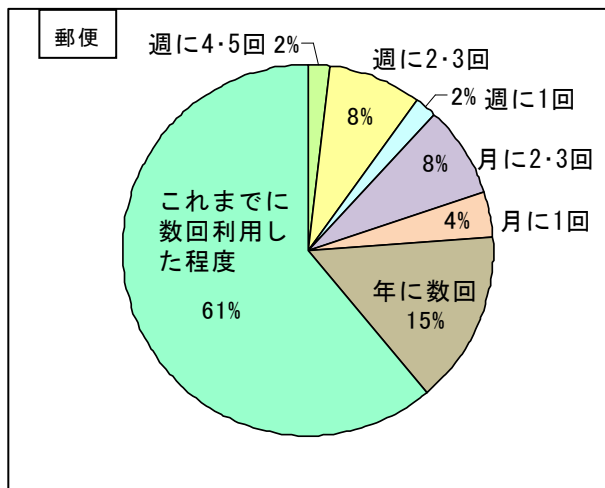
※※※ 「セ」～「タ」はコミュニティバスを利用したことがある方の回答 ※※※

セ コミュニティバス「坂東号」の利用頻度について

(回答数=95 郵便調査：48・対面調査：47)

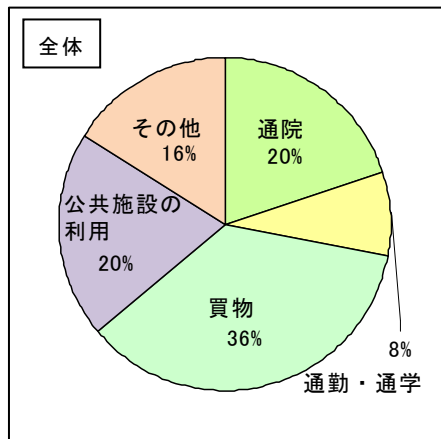


郵便調査では、「これまでに数回利用した程度」が61%と半分以上を占めたのに対し、対面調査においては、「これまでに数回利用した程度」は4%と少なく、「週に2・3回程度」が47%を占めた。

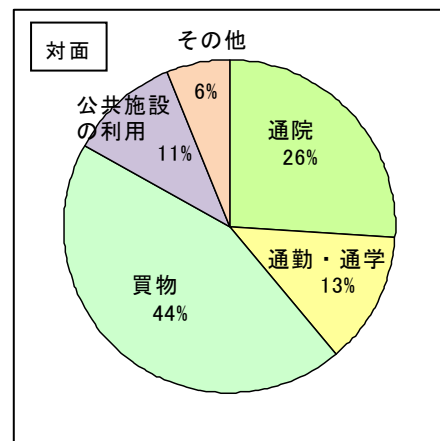
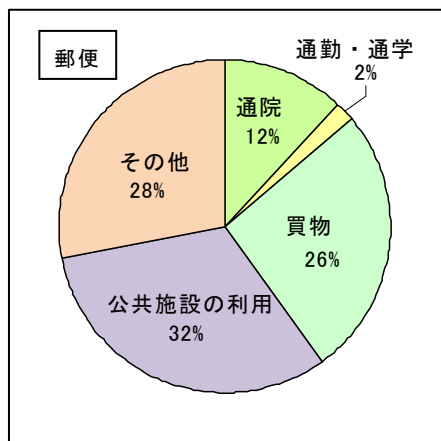


ソ コミュニティバス「坂東号」の利用目的について

(複数回答、回答数=129 郵便調査：57・対面調査：72)



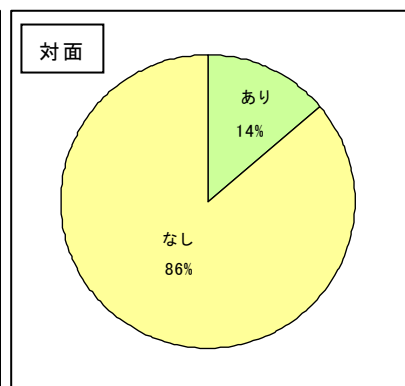
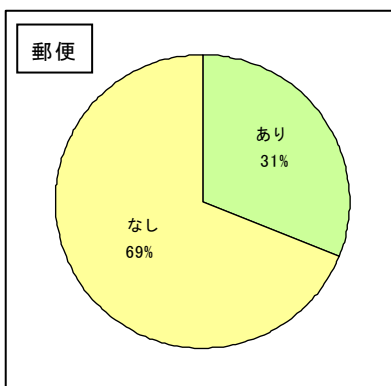
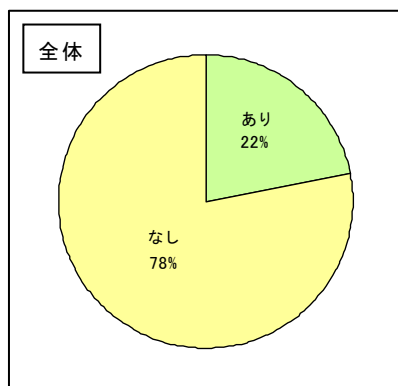
全体では「買物」が36%と最も多く、次いで「通院」と「公共施設の利用」が20%を占めている。郵便調査においては、「公共施設の利用」が32%と最も多く、対面調査においては、「買物」が44%と最も多かった。



タ コースが見直されたとき、これまでのところ以外で行きたい場所について

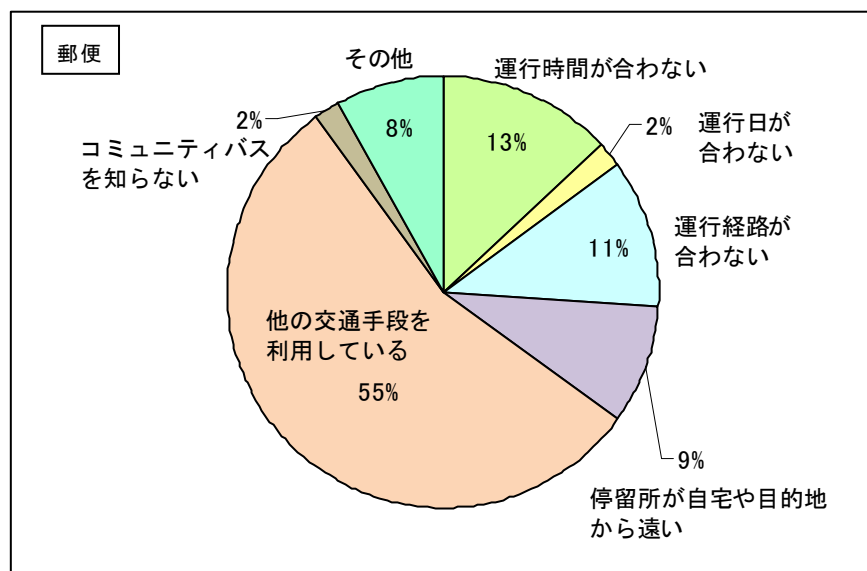
(回答数=77 郵便調査：35・対面調査：42)

「ある」が全体では22%で、行きたい場所は、公共施設が多かった。



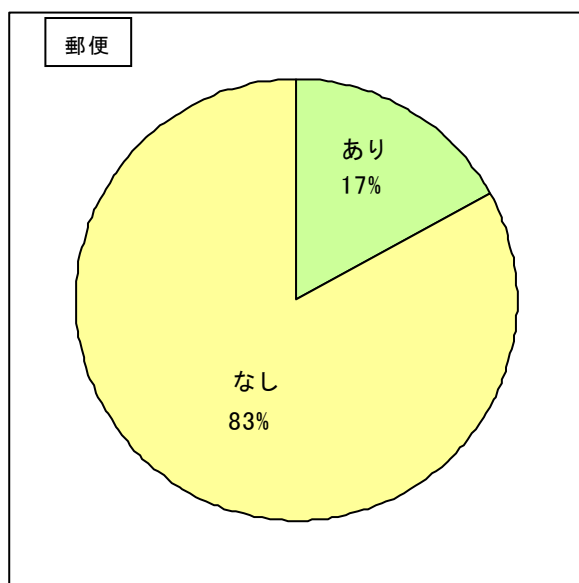
チ コミュニティバス「坂東号」を利用しない理由について（複数回答、回答数=790）

「他の交通手段を利用している」が432人で55%を占め、次いで「運行時間が合わない」が13%、「運行経路が合わない」が11%、「停留所が自宅や目的地から遠い」が9%となっている。



ツ コース・利用条件が合えば、行きたい場所について（回答数=577）

「ある」が17%で、目的地は公共施設や商業施設等が多かった。



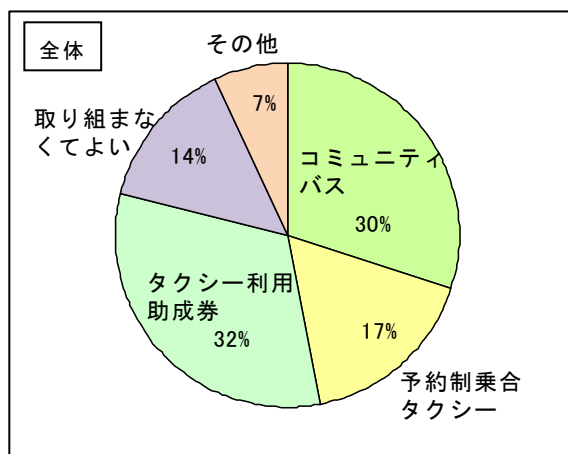
行きたい場所

- ・公共施設・・・18人
- ・商業施設・・・16人
- ・駅・・・11人
- ・中心市街・・・9人
- ・他市町村・・・6人
- ・病院・・・6人
- ・その他・・・17人
- ・記載なし・・・14人

（注）複数記載あり

テ 今後、市が実施する移動手段の確保策について

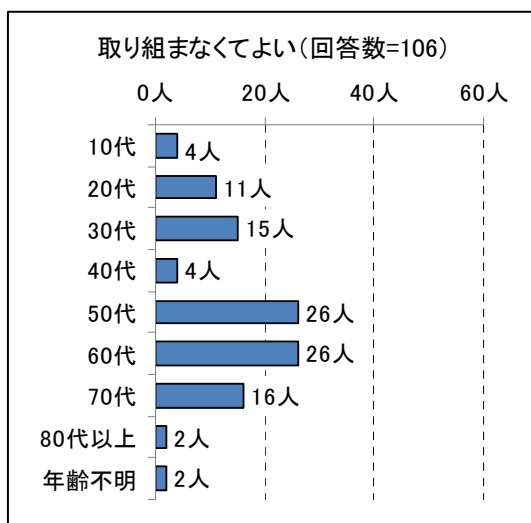
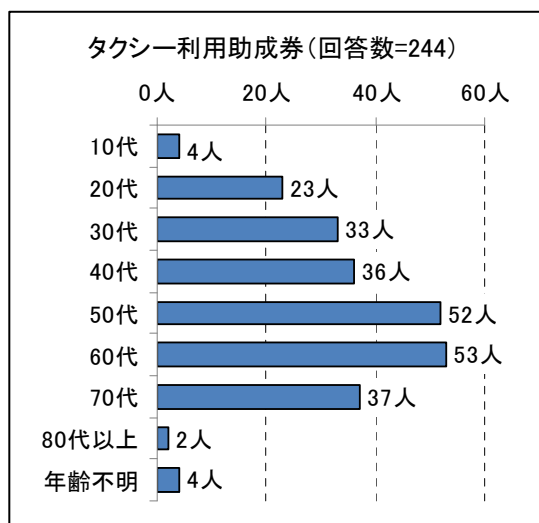
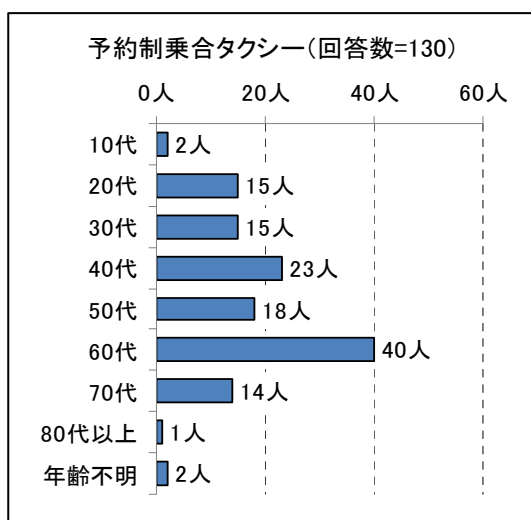
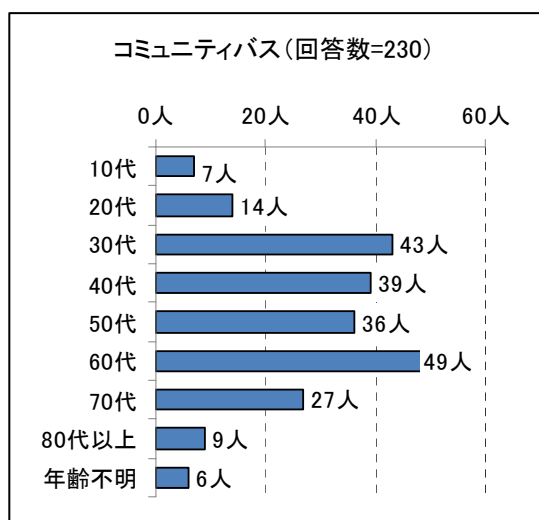
(回答数=767 郵便調査：719・対面調査：48)

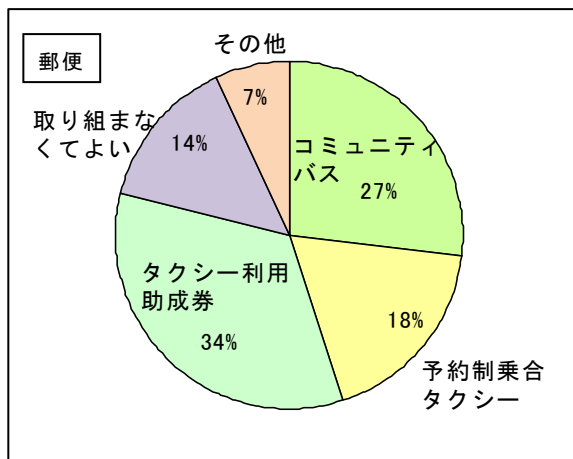


「タクシー利用助成券の発行」が244人で32%と最も多く、次いで「コミュニティバス」が230人で30%、「予約制乗合タクシー」が130人で17%であった。一方で、「取り組みなくてよい」が106人で14%であった。

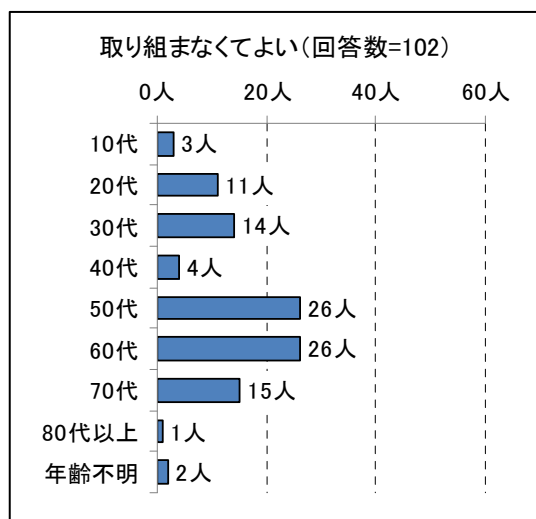
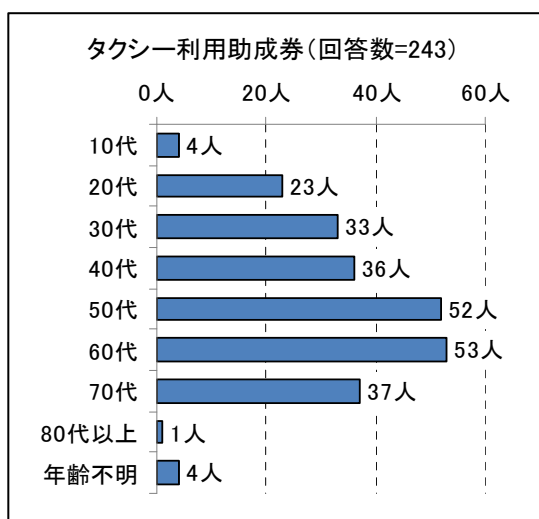
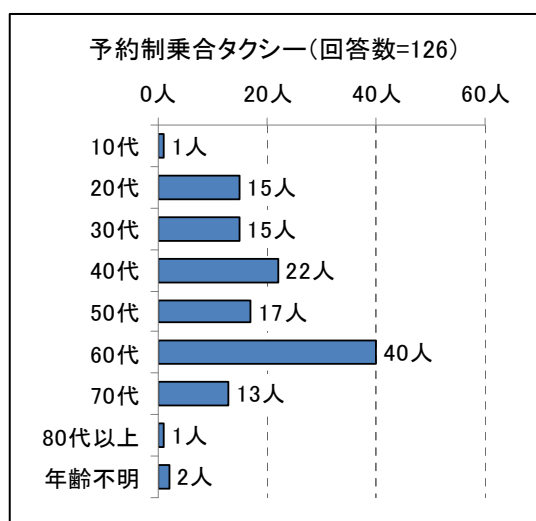
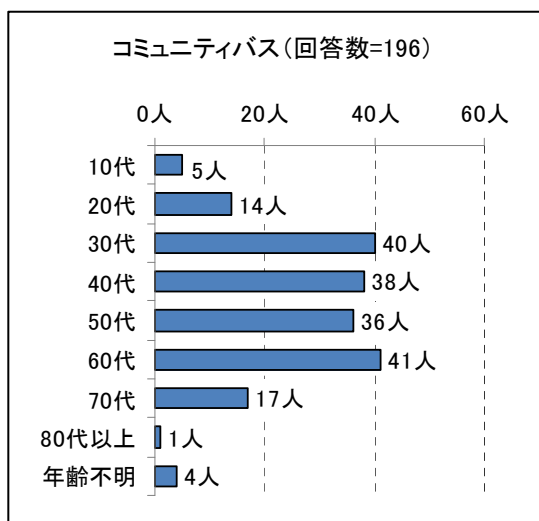
予約制乗合タクシーとは？

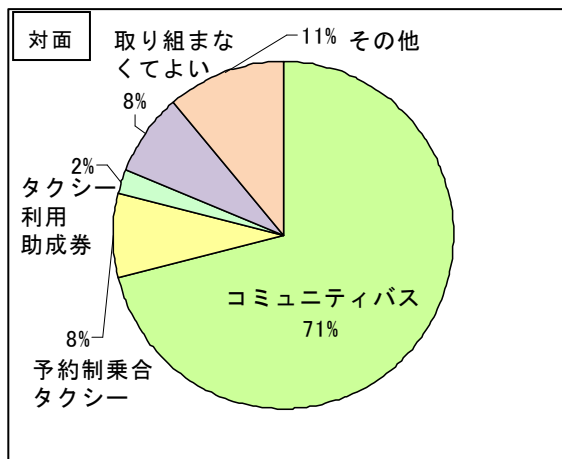
予約制により利用者の希望に基づき乗合で移送。複数での乗り合いのため、通常のタクシーに比べ安価な料金設定可能



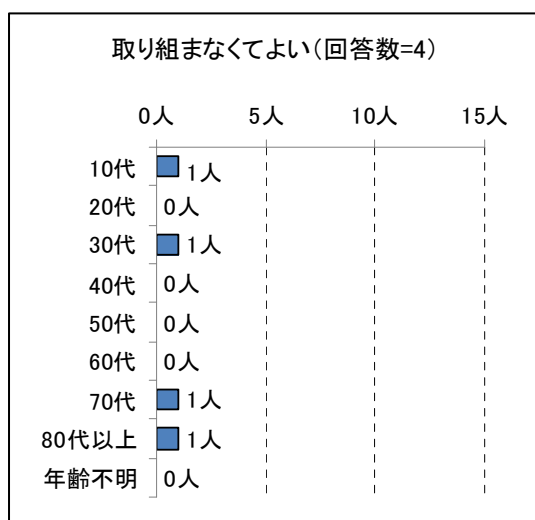
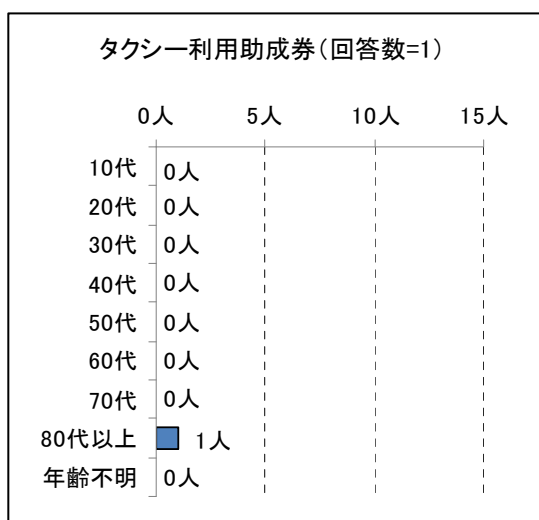
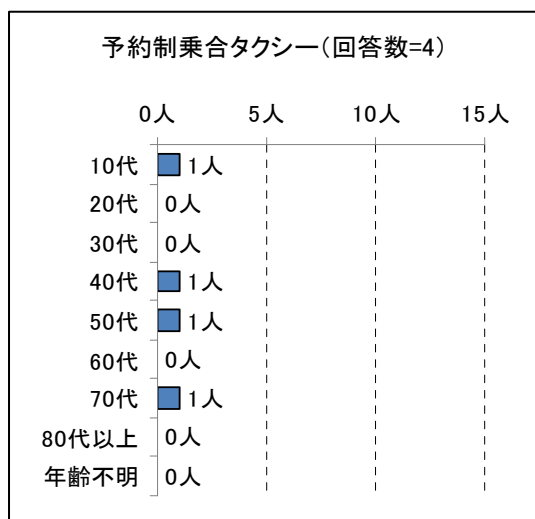
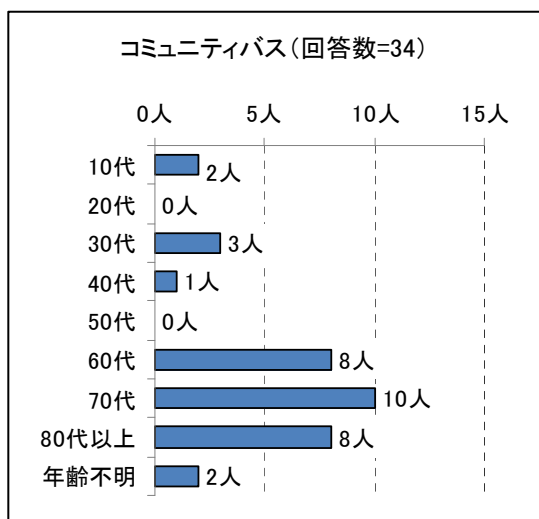


郵便調査では、「タクシー利用助成券の発行」が34%と最も多く、次いで「コミュニティバス」が27%、「予約制乗合タクシー」が18%であった。一方で、「取り組まなくてよい」も14%に上った。また、「その他」では、鉄道の誘致促進等の意見があった。





対面調査では、「コミュニティバス」が34人で71%と大部分を占めた。これは、実際の利用者がコミュニティバスの継続を望んでいると思われ、60代以上の方が26人で76%を占めた。



コミュニティバス「坂東号」を利用しない理由として「運行時間が合わない・他の交通手段を利用している等」と回答した方の、今後、市が実施する移動手段の確保策に対する意見は、次のとおりとなっており、どの理由においても「タクシー利用助成券の発行」を望む声が最も多く、次いで「コミュニティバス」、「予約制乗合タクシー」の順に回答された方が多かった。

コミュニティバスを利用しない理由(質問11)	市が実施する移動手段の確保策(質問13)	人数	割合
運行時間が合わない	コミュニティバス	31	30%
	予約制乗合タクシー	16	15%
	タクシー利用助成券	35	34%
	取り組まなくてよい	16	15%
	その他	6	6%
	計	104	100%

コミュニティバスを利用しない理由(質問11)	市が実施する移動手段の確保策(質問13)	人数	割合
運行日が合わない	コミュニティバス	7	35%
	予約制乗合タクシー	2	10%
	タクシー利用助成券	8	40%
	取り組まなくてよい	3	15%
	その他	0	0%
	計	20	100%

コミュニティバスを利用しない理由(質問11)	市が実施する移動手段の確保策(質問13)	人数	割合
運行経路が合わない	コミュニティバス	25	29%
	予約制乗合タクシー	8	9%
	タクシー利用助成券	33	38%
	取り組まなくてよい	15	17%
	その他	6	7%
	計	87	100%

コミュニティバスを利用しない理由(質問11)	市が実施する移動手段の確保策(質問13)	人数	割合
停留所が自宅や目的地から遠い	コミュニティバス	17	25%
	予約制乗合タクシー	11	16%
	タクシー利用助成券	24	35%
	取り組まなくてよい	11	16%
	その他	5	8%
	計	68	100%

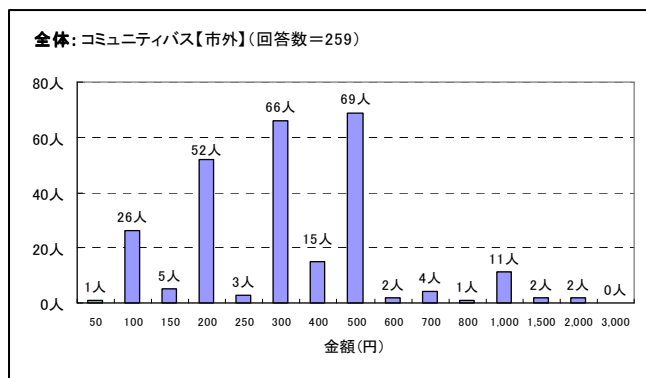
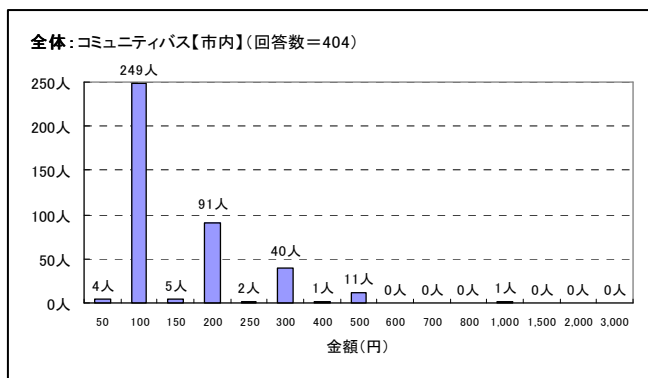
コミュニティバスを利用しない理由(質問11)	市が実施する移動手段の確保策(質問13)	人数	割合
他の交通手段を利用している	コミュニティバス	109	25%
	予約制乗合タクシー	87	20%
	タクシー利用助成券	139	33%
	取り組まなくてよい	65	15%
	その他	32	7%
	計	432	100%

コミュニティバスを利用しない理由(質問11)	市が実施する移動手段の確保策(質問13)	人数	割合
コミュニティバスを知らない	コミュニティバス	3	17%
	予約制乗合タクシー	4	22%
	タクシー利用助成券	8	44%
	取り組まなくてよい	1	6%
	その他	2	11%
	計	18	100%

ト 1回の乗車でどのくらいの料金までならば公共交通を利用するかについて

(ア) コミュニティバスの場合 (回答数=404 (市内)・259 (市外))

市内での利用の場合は「100円」が249人で62%と最も多く、次いで「200円」が91人で23%となった。また、市外での利用の場合は「500円」が69人で27%と最も多く、次いで「300円」「200円」であった。また、市外の場合の目的地は、守谷市(守谷駅含む。)が最も多かった。



市外の場合の目的地 (主なもの)

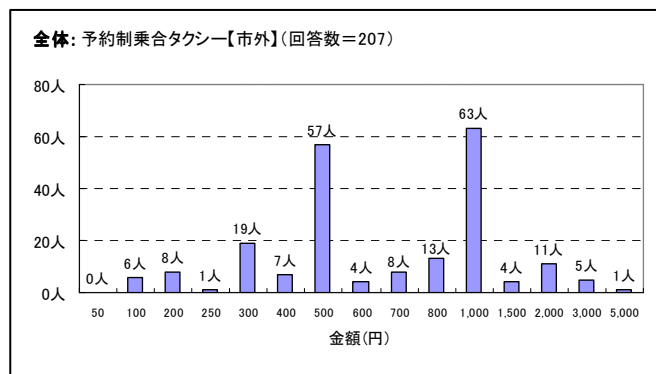
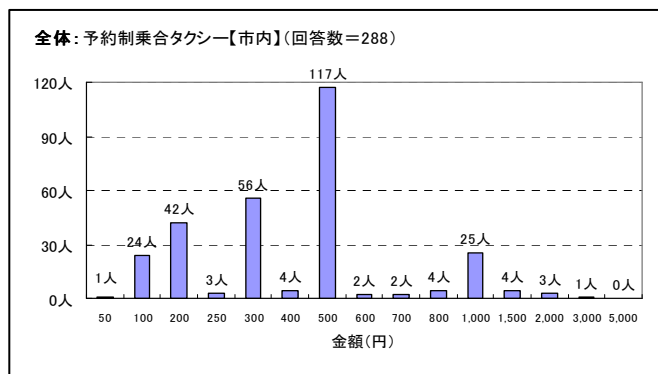
- ・ 守谷市 (守谷駅含む。) ・ ・ ・ ・ ・ 62
- ・ 境町 (西南医療センター含む。) ・ ・ ・ 24
- ・ 野田市 (野田市駅・愛宕駅含む。) ・ ・ 20
- ・ 常総市 (水海道駅含む。) ・ ・ ・ ・ ・ 19

《参考: 路線バス運賃》

- ・ 岩井局前～守谷駅 ・ ・ ・ ・ ・ 700 円
- ・ 岩井局前～水海道駅 ・ ・ ・ ・ 580 円
- ・ 岩井局前～愛宕駅 ・ ・ ・ ・ ・ 580 円
- (岩井局前～野田市駅 ・ ・ ・ ・ 600 円)

(イ) 予約制乗合タクシーの場合 (回答数=288 (市内)・207 (市外))

市内での利用の場合は「500円」が117人で41%と最も多く、次いで「300円」が56人で20%、「200円」が42人で15%となった。また、市外での利用の場合は「1,000円」が63人で30%と最も多く、次いで「500円」が57人で28%であった。また、市外の場合の目的地は、守谷市(守谷駅含む。)が最も多かった。

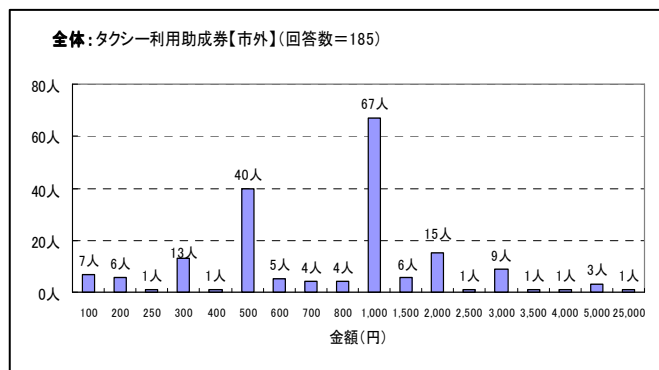
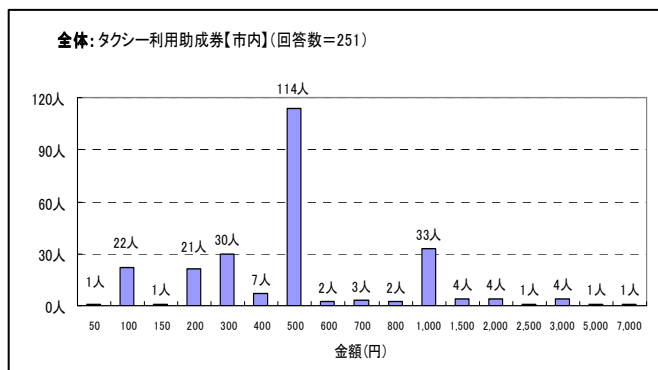


市外の場合の目的地 (主なもの)

- ・ 守谷市 (守谷駅含む。) ・ ・ ・ ・ ・ 37
- ・ 境町 (西南医療センター含む。) ・ 15
- ・ 常総市 (水海道駅含む。) ・ ・ ・ ・ 14
- ・ つくば市 ・ ・ ・ ・ ・ 18
- ・ 野田市 (野田市駅・愛宕駅含む。) ・ ・ 15

(ウ) タクシー利用助成券の場合（回答数=251（市内）・185（市外））

市内での利用の場合は「５００円」が１１４人で４６％と最も多く、次いで「１，０００円」が３３人で１３％、「３００円」が３０人で１２％であった。また、市外での利用の場合は「１，０００円」が６７人で３６％と最も多く、次いで「５００円」が４０人で２２％であった。また、市外の場合の目的地は、守谷市(守谷駅含む。)が最も多かった。



市外の場合の目的地（主なもの）

- ・ 守谷市（守谷駅含む。）・・・ 31
- ・ 常総市（水海道駅含む。）・・・ 16
- ・ 境町（西南医療センター含む。）・・・ 14
- ・ 野田市（野田市駅・愛宕駅含む。）・・・ 14
- ・ つくば市 ・・・ 14

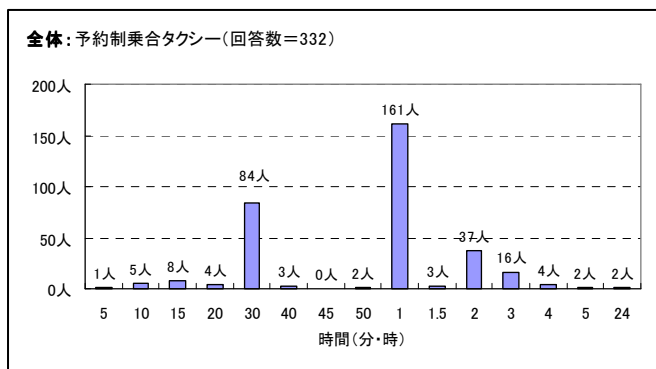
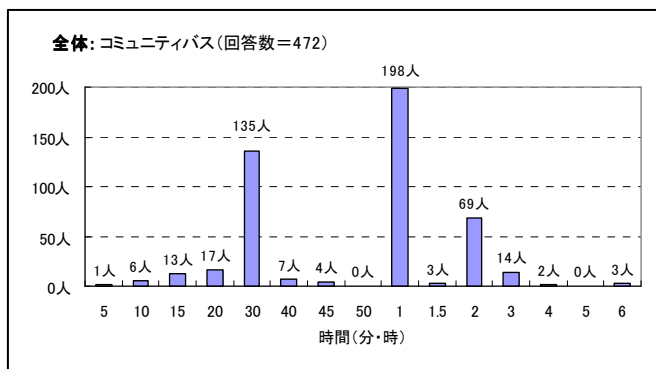
《参考：タクシー料金》※普通車
距離制運賃

- ・ 初乗運賃(2,000m まで)・・・ 710 円
- ・ 加算運賃(290m ごと)・・・ 290 円

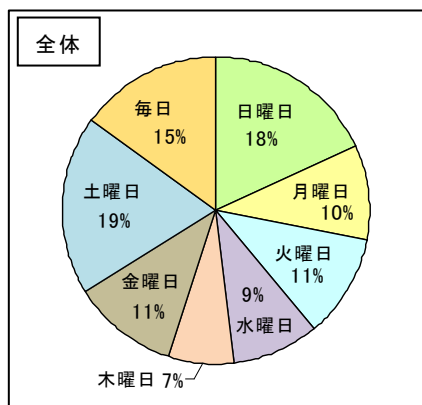
ナ 運行間隔について（回答数=472（コミュニティバス）、332（予約制乗合タクシー））

「コミュニティバス」に対しては「１時間間隔」での運行が１９８人で４２％と最も多く、次いで「３０分間隔」が１３５人で２８％を占めた。

「予約制乗合タクシー」についても、「コミュニティバス」と同様に「１時間間隔」が１６１人で４８％と最も多く、次いで「３０分間隔」が８４人で２５％を占めた。



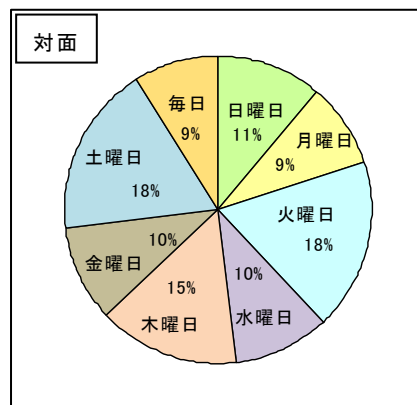
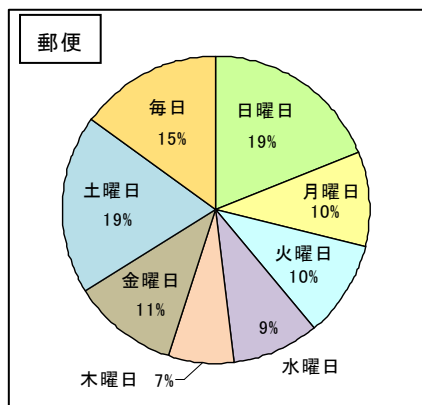
二 利用したい曜日について（複数回答：回答数=897 郵便調査：818・対面調査：79）



全体では、土曜日が19%と最も多く、次いで日曜日18%、毎日15%となっており、その他の曜日は10%前後となっている。

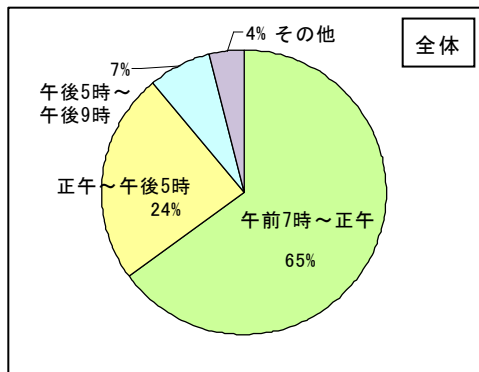
郵便調査においては全体をほぼ同じ割合となっている。

対面調査においては、月曜日から金曜日までの割合が大きくなり、毎日が最も少なくなっている。

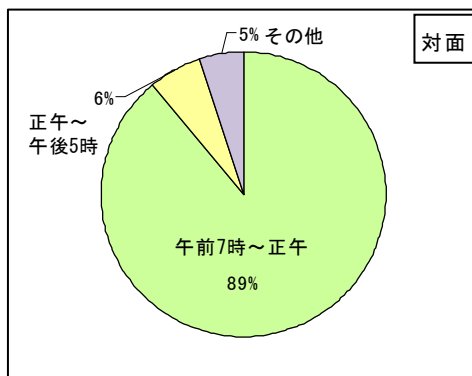
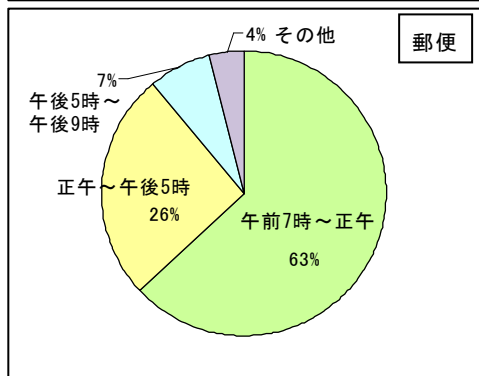


ヌ 利用したい時間について

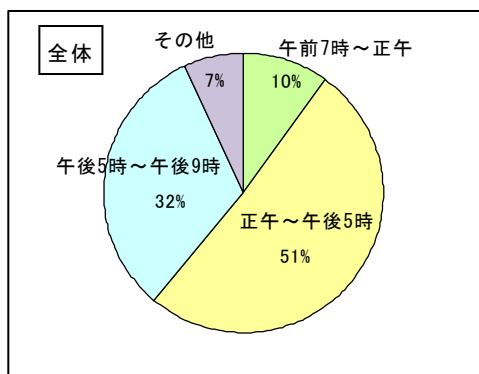
(ア) 行き（複数回答：回答数=556 郵便調査：519・対面調査：37）



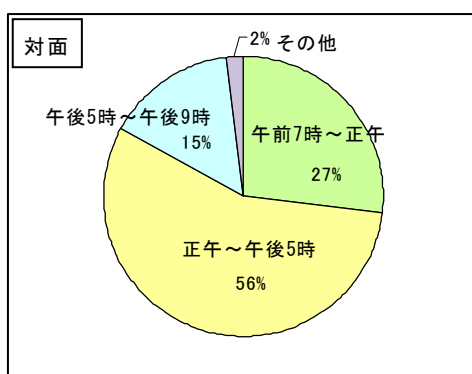
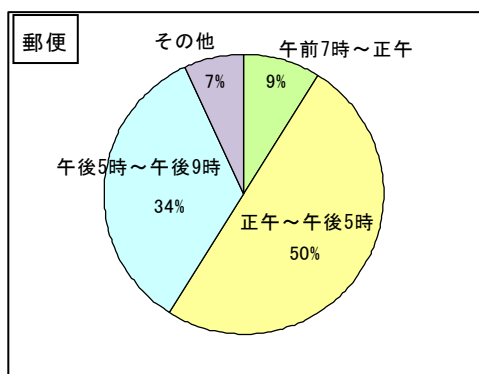
郵便調査では「午前7時から正午」が63%を占め、次いで「正午から午後5時」が26%であった。対面調査では「午前7時から正午」が89%を占めた。



(イ) 帰り（複数回答：回答数=552 郵便調査：511・対面調査：41）



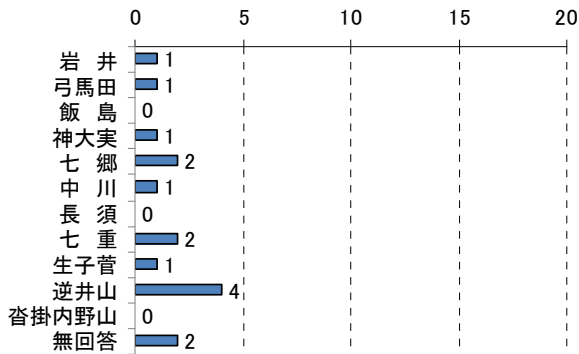
郵便調査では「正午から午後5時」が50%を占め、次いで「午後5時から午後9時」が34%であった。対面調査においては「正午から午後5時」が56%を占めた。



ネ 市の公共交通全般についてのご意見・ご要望（複数回答：回答数＝507）

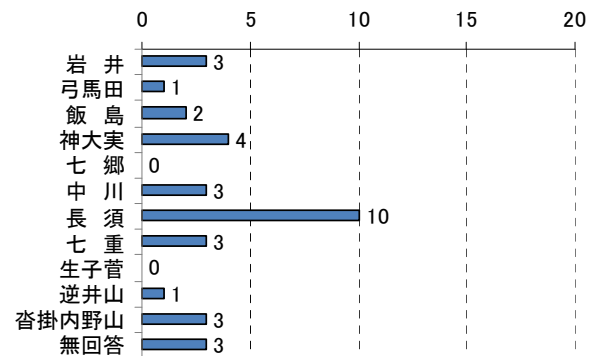
公共交通は必要（限定せず）

回答数：15



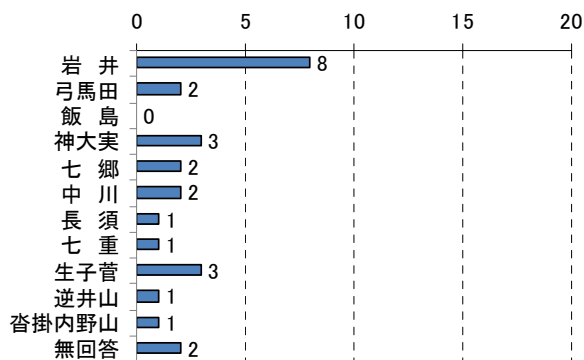
コミュニティバスは必要（続けて欲しい）

回答数：33



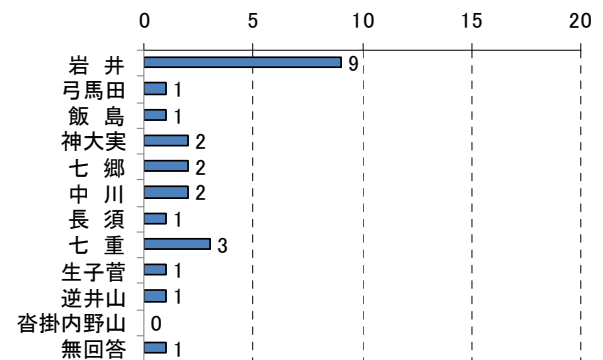
予約制乗合タクシーがよい

回答数：26



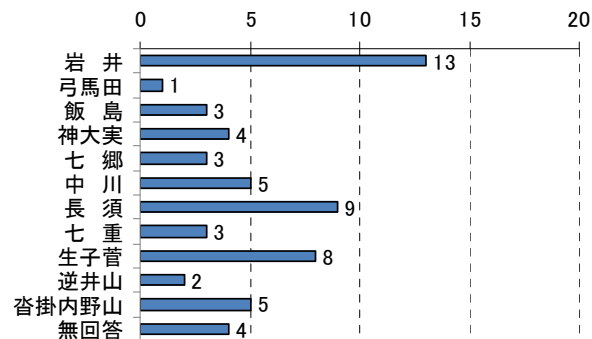
タクシー利用助成券を活用

回答数：24



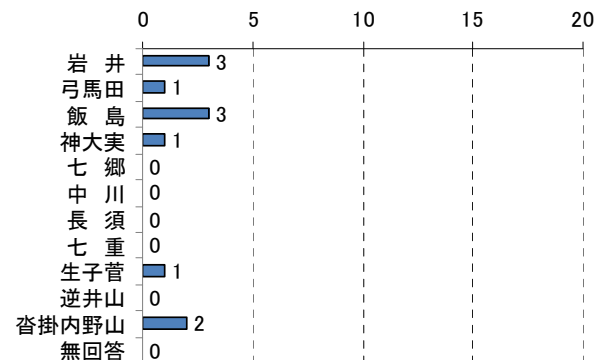
車を運転できない高齢者、体の不自由な方や子供のために
は、公共交通（コミュニティバス）は、貴重な交通手段

回答数：60

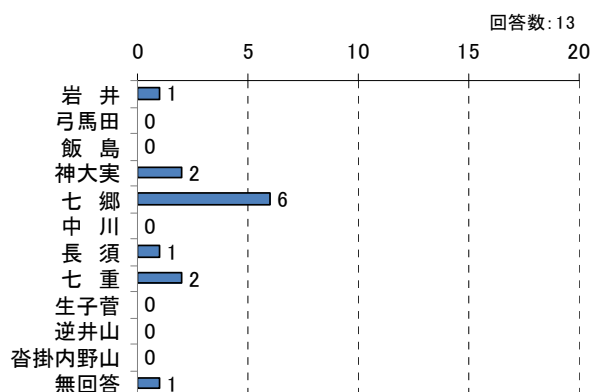


病院等への交通手段として利用したい

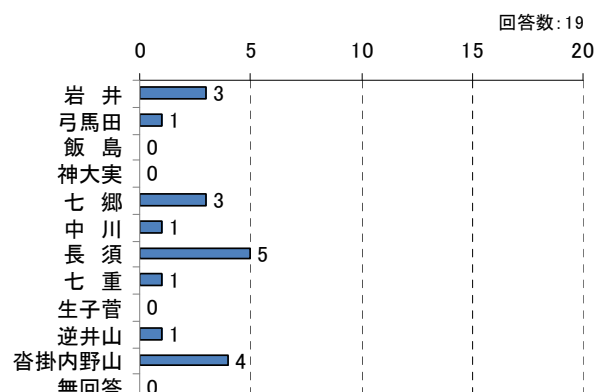
回答数：11



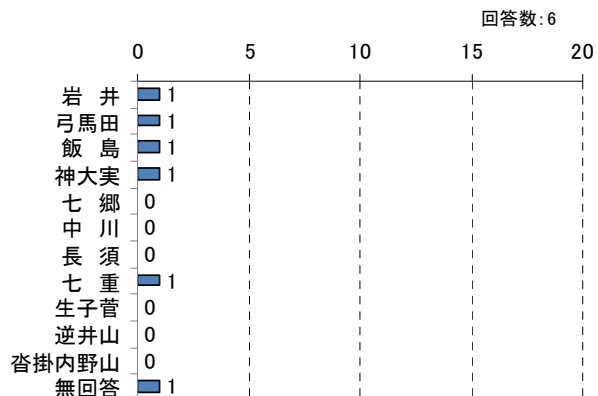
通学(スクールバス)の交通手段として利用したい



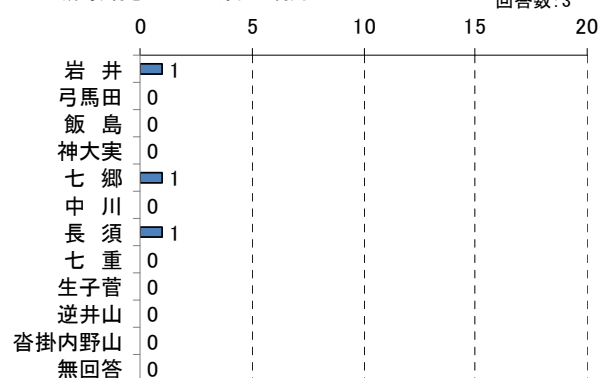
他市町村への公共交通整備をもらいたい(駅、警察等)



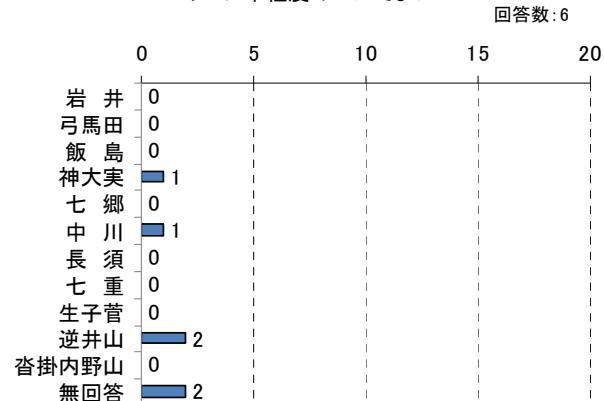
本数を少なくして、コミュニティバスを続ける



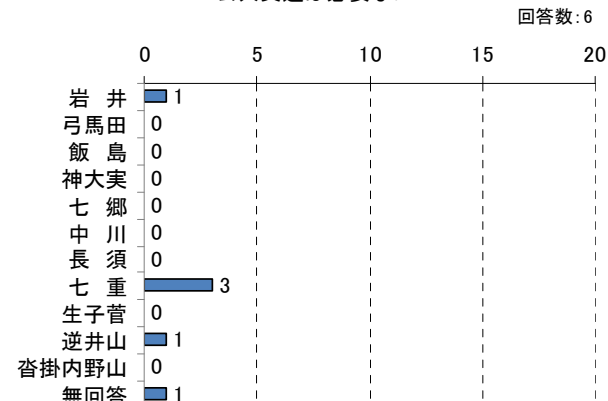
巡回ではなく目的地(ベルフォーレ、図書館、自然博物館、市役所等)行きのバスがあれば利用したい



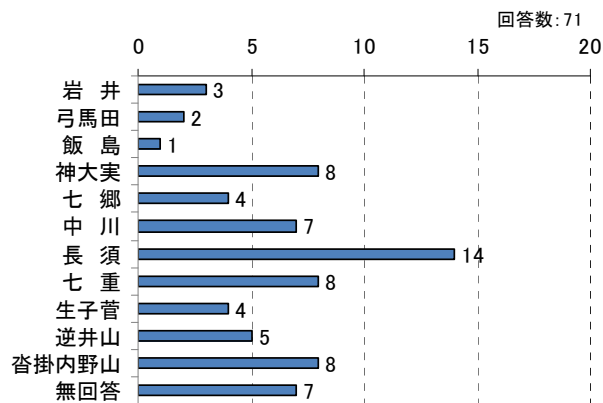
ワゴン車程度のバスでよい



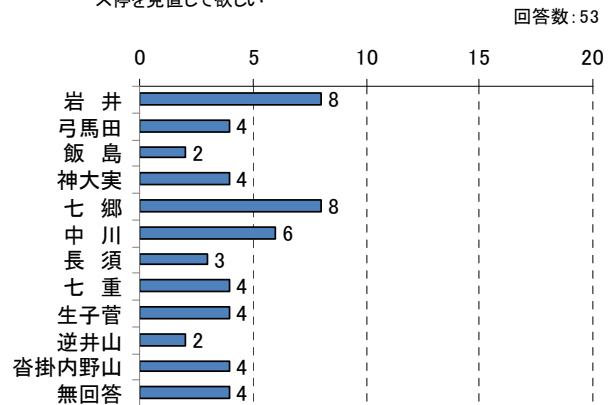
公共交通は必要ない



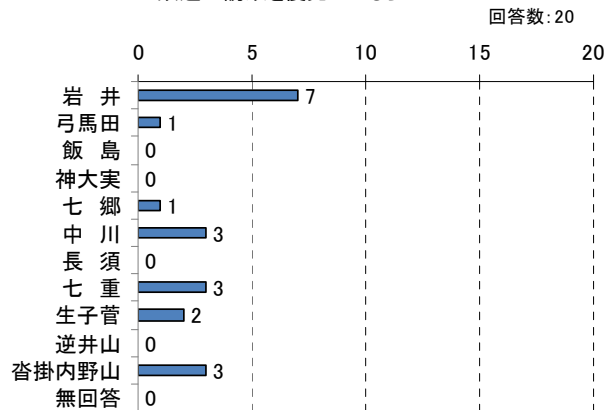
コミュニティバスは利用者が少なく必要ない(税金の無駄)



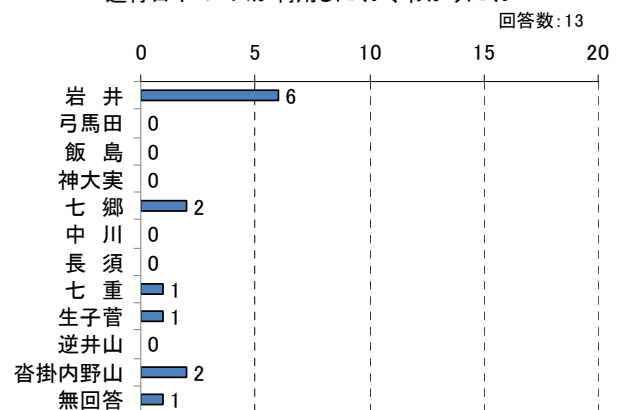
コミュニティバス(路線バス)の本数を増やして欲しい・運行時間を伸ばして(早くして)欲しい・日曜日にも運行して欲しい・ルート・バス停を見直して欲しい



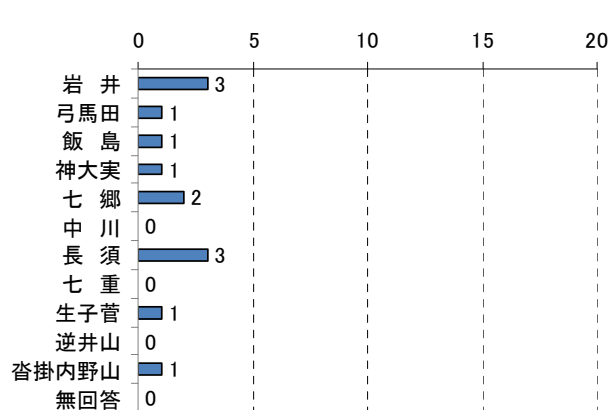
鉄道の誘致を優先してもらいたい



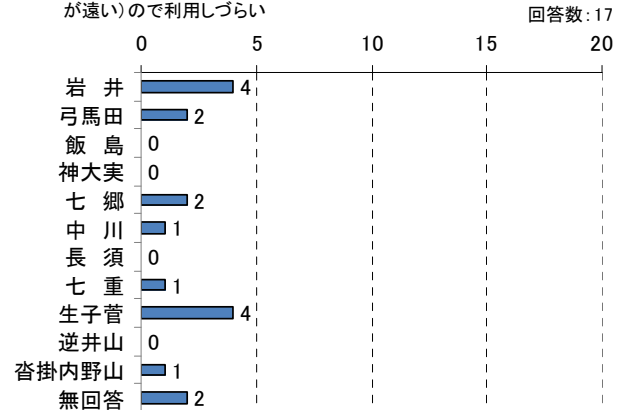
運行日やコースが利用しにくい、わかりにくい



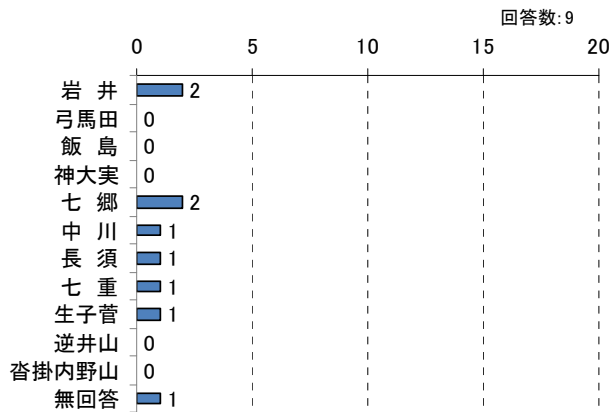
目的地に着くまでに(帰宅するとき)時間がかかりすぎる



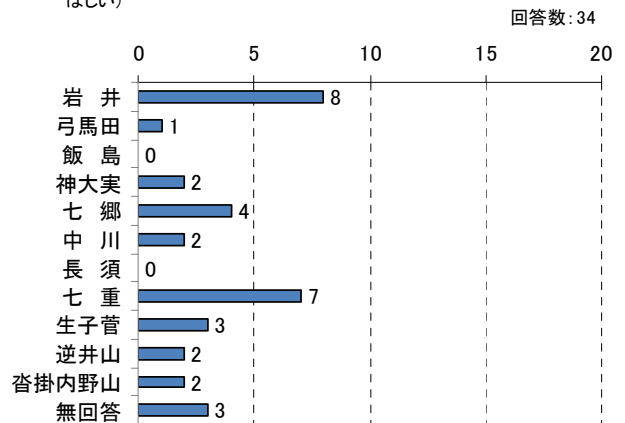
コミュニティバス(路線バス)の停留所が遠い(停留所から目的地が遠い)ので利用しづらい



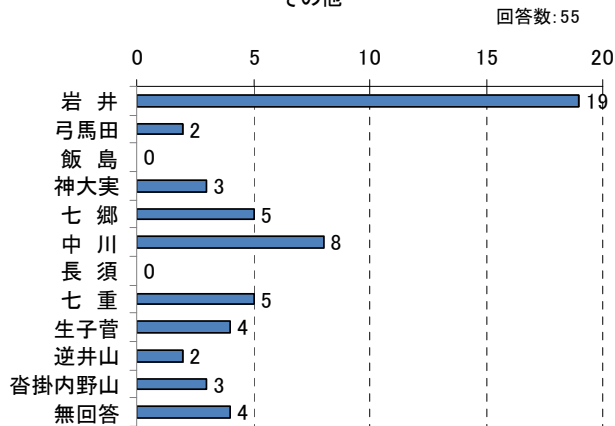
コミュニティバスを周知・アピールしたほうがよい



コミュニティバスを利用しなくても自家用車等で済むので利用していない・公共交通は利用していない(利用者にアンケートをとってほしい)



その他



《その他の意見》

- ・バス停ではなく好きなところで降ろしてほしい。(80代女性)
- ・小中高校生が利用しやすくなるとよい。(30代女性)
- ・NP0等により、自転車タクシーを走らせ、将来一人老人対策も含め、買物等に利用したい。(60代男性)
- ・車を持っている人で、シルバーの人のように登録してもらって空いている日や時間に車を必要とする人の自宅から買い物や病院などへ乗せていってあげられたら、たくさん利用できるのでは。(50代男性)
- ・市の中心部に、バスのハブターミナルを設置し、そこから各方面に向け、交通網を考えるべきと思う。
また、ターミナルを中心としたまちづくりをしては。(60代男性) 等